

fmi

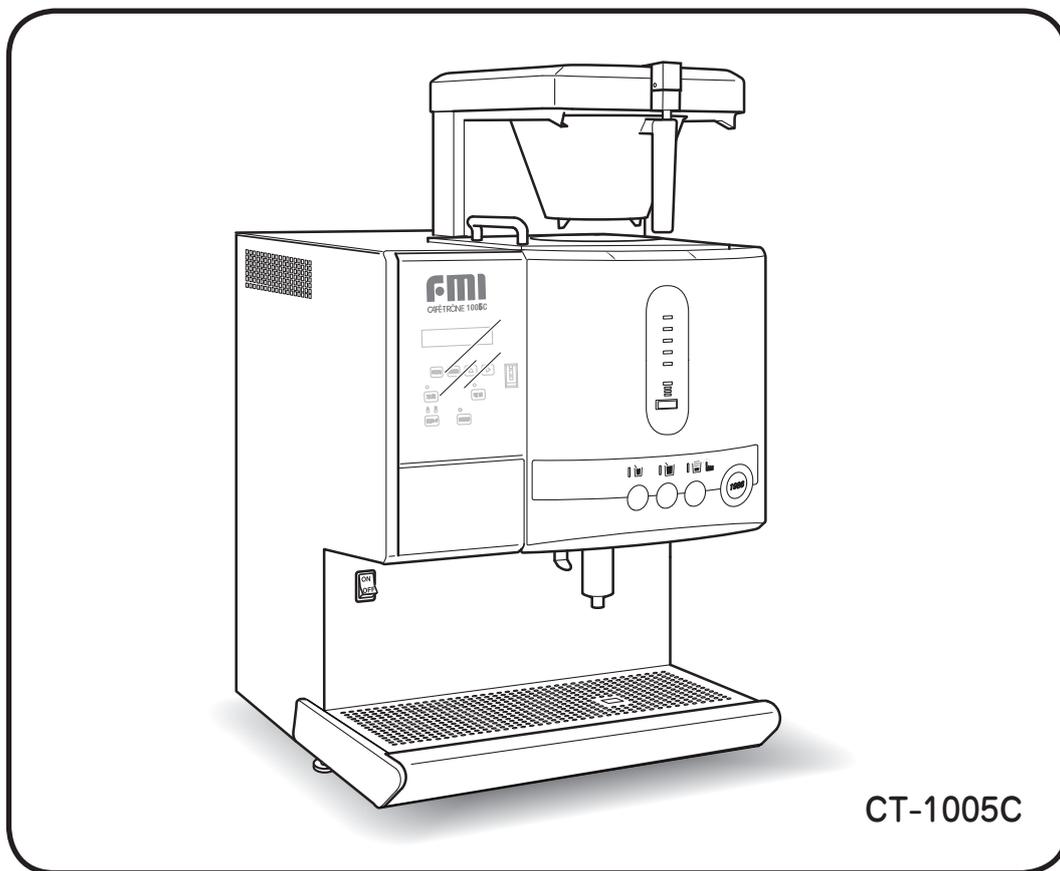
アイスコーヒーマシン「カフェトロン」

CAFÉ-TRÔNE

お客様用

— 取扱説明書 —

型式：CT-1005C（業務用）



CT-1005C

- このたびは、当社のアイスコーヒーマシン「カフェトロン」をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございました。
- この商品を安全に正しく使用していただくために、お使いになる前にこの取扱説明書をよくお読みになり十分に理解してください。
- お読みになったあとは、必ずいつも手元においてご使用ください。
- 製品と本内容は予告なく変更されることがあります。
ご了承いただけますようお願い致します。

目次

本機をお使いになる前に	1
-------------	---

安全上のご注意	1
---------	---

本機の使用にあたって、 必ず守ってください	2・3
--------------------------	-----

各部の名称とはたらき

本体	4
抽出・取り出しスイッチ部	5
操作スイッチパネル部	6・7

第1章 抽出のしかた

8

本機の操作時には必ず守ってください	8
-------------------	---

本体のメインスイッチを入れる前に	9
------------------	---

本機の立ち上げかた	9・10
-----------	------

アイスコーヒーの抽出のしかた	11~13
----------------	-------

アイスコーヒーの取り出しかた	14・15
----------------	-------

第2章 冷蔵のしかた

16

アイスコーヒーの冷蔵のしかた	16・17
----------------	-------

第3章 洗浄・清掃のしかた

18

本機の洗浄・清掃時には 必ず守ってください	18・19
--------------------------	-------

毎日おこなう洗浄と清掃

ファンネルの洗浄	20
ドレンプレート、ドレンパンの洗浄	21

週に1~2回おこなう洗浄と清掃

コーヒータンクの自動洗浄	22~25
コーヒータンク内部の洗浄	26・27
コーヒーノズル（延長ノズル）の洗浄	28
ファンネル取り付け部底面の清掃	29
手動コーヒー取り出し部の洗浄	30
本体外装の清掃	30

1ヶ月に1回おこなう洗浄と清掃

ドリップシャワープレートの洗浄	31
-----------------	----

3ヶ月に1~2回おこなう清掃

フィルター清掃	32
長期間ご使用にならないとき	33
浄水器について	33

第4章 お手入れと点検

34・35

第5章 プログラム設定について

36

プログラムの概要

プログラムモードに入るには	36
プログラムのグループ	37

各プログラムグループの設定のしかた

時計／自動立ち上げグループ	38~43
ドリップ抽出グループ	44~47
コーヒー取り出し時間グループ	48・49
温度グループ	50~53
ボタン反応時間	54・55

第6章 据付けについて

56

本機の据付け時には必ず守ってください	56・57
--------------------	-------

据付工事

配管用部品	58
据付前の準備	58~61

据付け

レイアウト	62・63
据付・接続	63~65
据付後の動作確認	66・67

仕様	68
----	----

保証書（別添付）について／消耗部品 ／補修用性能部品の保有期間	69
------------------------------------	----

本機をお使いになる前に

安全上のご注意

- ご使用になる前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので必ず守ってください。

表示と意味は次のようになっています。

【注意喚起シンボルとシグナル表示の例】

 警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
 注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害*の発生が想定される内容を示します。

*物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害を示します。

【図記号の例】

 感電注意	△は、注意（警告を含む）を示します。 具体的な注意内容は、△の近くや中に絵や文章で示します。 左図の場合は「感電注意」を示します。
 接触禁止	⊘は、禁止（してはいけないこと）を示します。 具体的な禁止内容は、⊘の中や近くに絵や文章で示します。 左図の場合は「直接手を触れないこと」を示します。
 プラグを抜く	●は、行動の命令（強制）を示します。 具体的な強制内容は、●の中や近くに絵や文章で示します。 左図の場合は「差込みプラグをコンセントから抜く」を示します。

本機の使用にあたって、必ず守ってください

警 告

- 漏電遮断器または、サーキットブレーカーが『OFF(切)』に作動したときは、お買上げ店に連絡すること

無理にレバーを『ON(入)』にすると、感電や火災の原因になります。



連絡

- 異常時は電源スイッチを切り、本機専用電源を『OFF(切)』にしてすぐにお買上げ店に連絡すること

異常のまま使用を続けると感電、火災の原因になります。



専用電源切

- 機械内部の電気装置や配線に触らないこと

やけどや感電の恐れがあります。



接触禁止

- ガス器具などからガスが漏れていたら、ガスの元栓を閉めて、窓を開けて換気すること

換気扇のスイッチを入れたりしますと、引火爆発し、危険です。



ガス栓閉

- 修理技術者以外の方は、絶対に分解したり修理は行わないこと

異常動作をしてケガをしたり、修理に不備があると感電、火災の原因になります。



分解禁止

- 改造は絶対に行わないこと

改造をされると、水漏れや感電、火災の原因になります。



改造禁止

- 移設は専門業者か、お買上げ店に相談すること

据え付け不備があると、水漏れ、感電、火災などの原因になります。



専門業者

- 廃却は専門業者か、お買上げ店に依頼すること

放置しますと、幼児などがケガをする原因になります。



専門業者

本機の使用にあたって、必ず守ってください

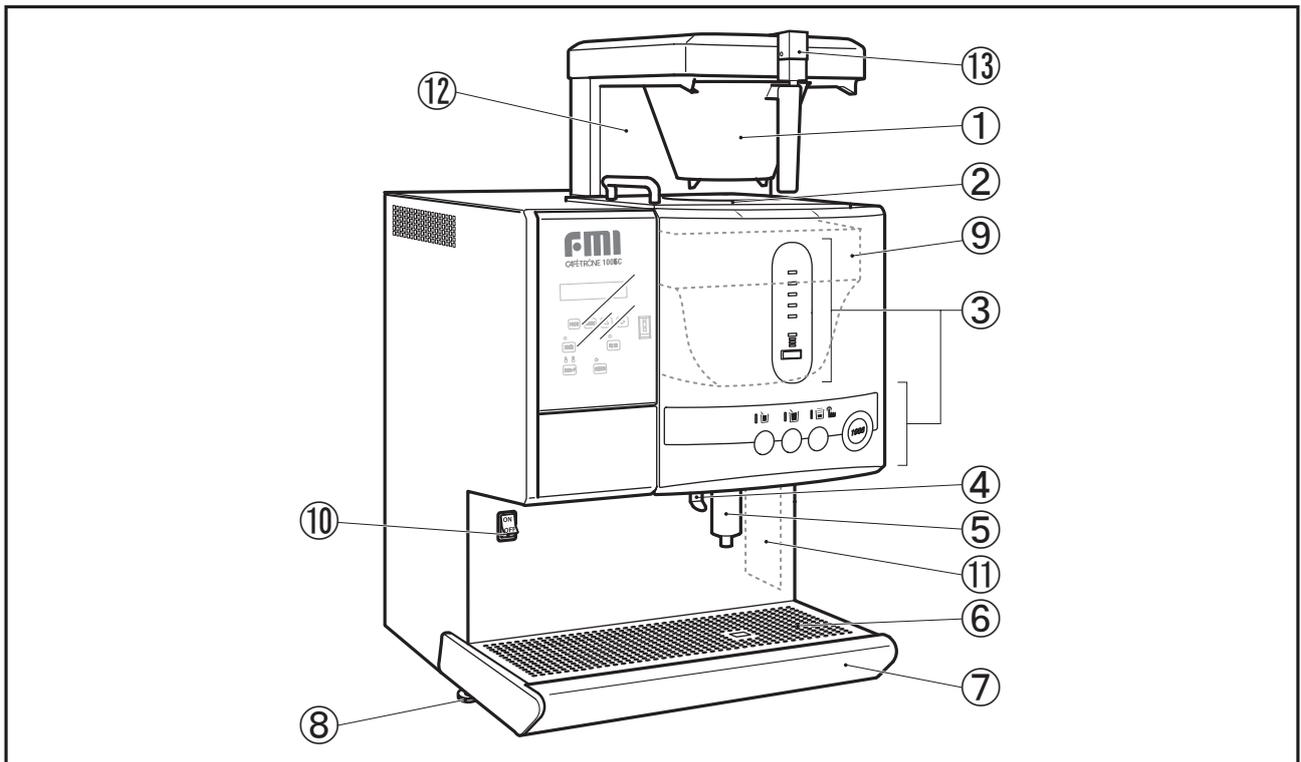
⚠ 注 意

<p>●自動洗浄時に停電や何らかの状態により、自動洗浄が中断された場合は すすぎ又は最初から自動洗浄をすること</p>	
<p>●本機の上に重量物や水を入れた容器を置かないこと 落下してケガをしたり、こぼれた水で電気部品の絶縁が悪くなり、漏電の原因になることがあります。</p>	
<p>●可燃性のスプレーを近くで使用したり、近くに可燃物を置かないこと 発火の原因になることがあります。</p>	
<p>●本機にもたれたり、乗ったりしないこと やけどや本機転倒によるケガの原因になります。</p>	
<p>●点検するときは、必ず電源スイッチを切って、本機専用電源も『OFF(切)』 にすること 感電したり、ケガの原因になることがあります。</p>	
<p>●電源プラグを使用している場合、プラグを抜くときは、電源コードを持って 抜かないこと 必ずプラグを持って抜いてください。電源コードを引っばるとコードが傷つき、 火災、感電の原因になることがあります。</p>	
<p>●一週間以上ご使用にならない場合は、安全のため電源スイッチを切って、本 機専用電源も『OFF(切)』にし、電源プラグを使用の場合は、コンセントか ら抜くこと 発熱、発火の原因になることがあります。</p>	
<p>●漏電遮断器は月に1回、動作確認すること 漏電遮断器を故障のまま使用すると、漏電のとき動作せず、感電の原因になること があります。</p>	
<p>●本機を他に売ったり、譲渡されるときには、新しく所有者となる方が安全な 正しい使い方を知るために、この取扱説明書を商品本体の目立つ所にテープ 止めすること</p>	

各部の名称とはたらき

●本機はアイスコーヒーを抽出する機械です。

本 体



① ファンネル

コーヒー粉を入れたペーパーフィルターをここにセットします。

② コーヒータンク蓋

③ 抽出スイッチ部

各メニューの抽出をおこないます。

詳しくは、P5 **抽出・取り出しスイッチ部**を参照してください。

④ コーヒー手動取り出しレバー

レバーを押している間、アイスコーヒーが出ます。

⑤ コーヒーノズル（延長ノズル）

アイスコーヒーがここから出ます。

⑥ ドレンプレート

アイスコーヒーを取り出すとき、グラスなどをここに置きます。

⑦ ドレンパン

排水を受けます。

⑧ アジャスト脚

本体を水平に保つために調整できます。

⑨ コーヒータンク（本体内部）

抽出したアイスコーヒーを保冷しておきます。

⑩ メインスイッチ

ONにすると通電した状態になります。

（操作スイッチパネルにある『電源スイッチ』とは役割が異なります。詳しくは、P9・10を参照してください。）

⑪ フィルターフォルダー

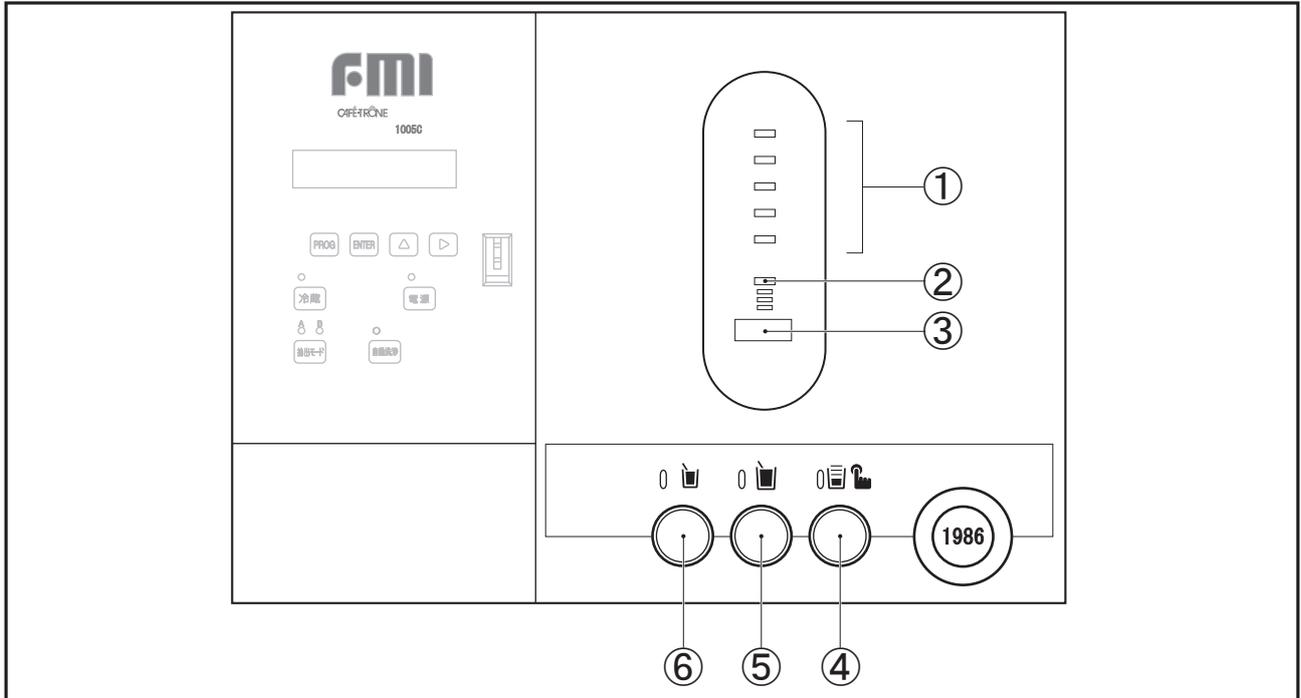
フィルターが内蔵されています。

⑫ ファンネル取り付け部

ファンネルを取り付けます。
持ち上げて掃除することができます。

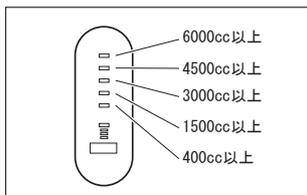
⑬ ファンネルロック

抽出・取り出しスイッチ部



① コーヒータンク残量ランプ

タンク内のアイスコーヒー残量が確認できます。各ランプの点灯時のコーヒー残量は下図のとおりです。



② 抽出状態表示ランプ

抽出状態表示ランプは下記の状態を示します。

緑点灯・・・コーヒー抽出可能
 赤点灯・・・コーヒー抽出中
 オレンジ点灯・・・コーヒー抽出後だれ中
 赤点滅・・・抽出したコーヒーの冷却中
 消灯・・・温水タンクの温度が低い

赤もしくはオレンジ点灯の時はファンネルを抜き取らないでください。
 やけどの原因になることがあります。

③ アイスコーヒー抽出スイッチ

アイスコーヒーの抽出をおこないます。
 もう一度押しとキャンセルができます。
 ファンネル取り付け部が上がっているときは反応しません。

④ アイスコーヒー取り出しスイッチ (Free)

コーヒータンク内のコーヒーが連続して出ます。止めるときはもう一度スイッチを押します。コーヒーが出ている間、スイッチ上のランプが点灯します。1秒間に約20ccのコーヒーが出ます。工場出荷時は300秒に設定しています。0～999秒（16分39秒）まで設定できます。

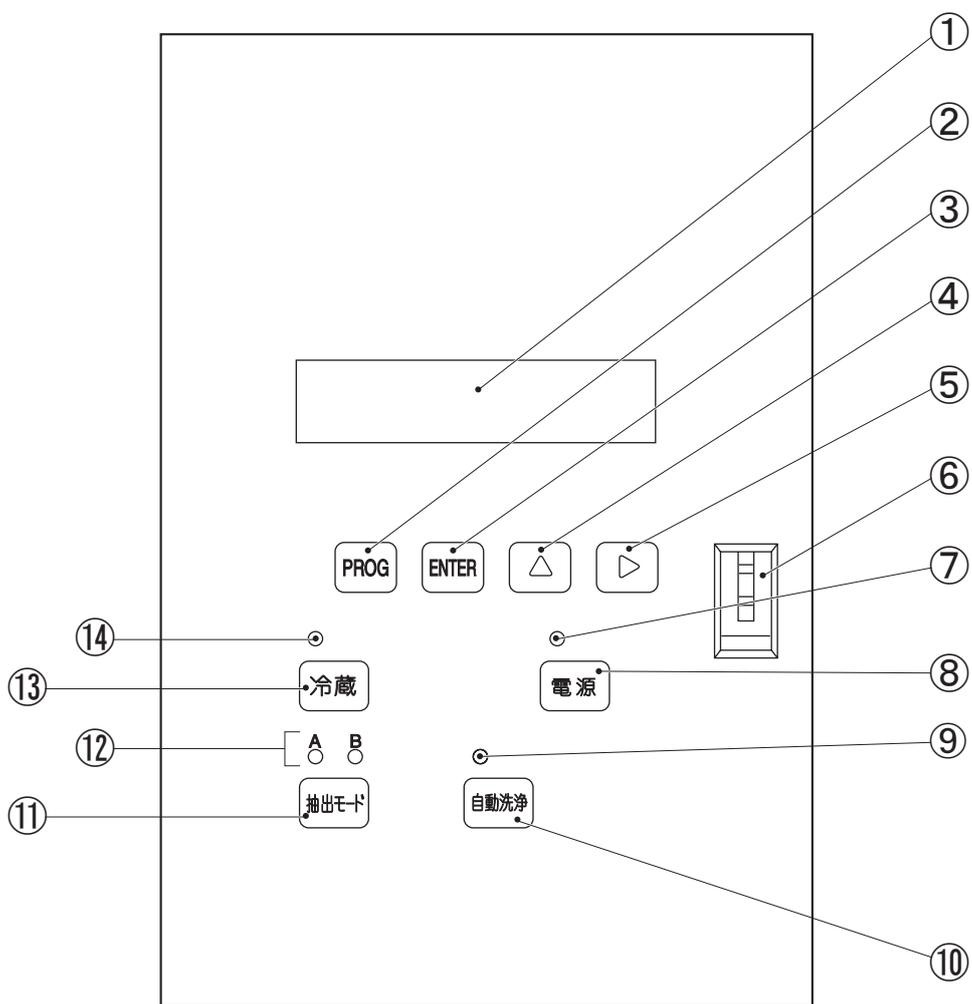
⑤ アイスコーヒー取り出しスイッチ (Large)

設定した量のアイスコーヒーがコーヒータンクから出ます。一般的にこのスイッチには大きいグラス一杯取りの設定をします。コーヒーを出している間、スイッチ上のランプが点灯します。1秒間に約20ccのコーヒーが出ます。工場出荷時は12秒に設定しています。0～999秒（16分39秒）まで設定できます。

⑥ アイスコーヒー取り出しスイッチ (Small)

設定した量のアイスコーヒーがコーヒータンクから出ます。一般的にこのスイッチには小さいグラス一杯取りの設定をします。コーヒーを出している間、スイッチ上のランプが点灯します。1秒間に約20ccのコーヒーが出ます。工場出荷時は6秒に設定しています。0～999秒（16分39秒）まで設定できます。

操作スイッチパネル部



各部の名称とはたらき

- ① **ディスプレイ**
現在の機械の状態を表示します。また各種のメッセージやプログラムの設定内容を表示します。
- ② **プログラムスイッチ**
プログラム設定時に使用します。
- ③ **エンタースイッチ**
プログラム設定の際、設定内容を登録します。
- ④ **△スイッチ**
プログラム設定の際、設定値を大きくします。
- ⑤ **▷スイッチ**
プログラム設定の際、カーソルを移動します。
- ⑥ **開閉ボタン**
操作スイッチパネルの扉を開閉します。
- ⑦ **電源ランプ**
電源スイッチがONのとき、点灯します。
- ⑧ **電源スイッチ**
電源をON/OFFします。(本体にあるメインスイッチがONになっていれば、電源スイッチがOFFになっていても機械は通電した状態になります。)
- ⑨ **自動洗浄表示ランプ**
アイスコーヒータンクの自動洗浄中に点灯します。
- ⑩ **自動洗浄スイッチ**
3秒間押しとアイスコーヒータンクを自動洗浄します。(もう一度押しと電源がOFFの状態になります。)
ファンネル取り付け部が上がっているときは反応しません。
- ⑪ **抽出モード選択スイッチ**
アイスコーヒーの抽出量を選択します。あらかじめプログラム設定されたA・Bの2つから選ぶことができます。
- ⑫ **抽出モード表示ランプ**
抽出されるアイスコーヒーの量が、A・Bいずれのモードかを表示します。
- ⑬ **冷蔵スイッチ**
このスイッチを3秒間押しと「冷蔵モード」にて運転します。(長時間コーヒーの抽出を行わない時に使用してください。)
- ⑭ **冷蔵表示ランプ**
冷蔵モード運転中に点灯します。

1

抽出のしかた

この章ではアイスコーヒーの抽出のしかたについて説明します。

本機の操作時には必ず守ってください



警告

- 濡れた手で電源プラグなど（電源プラグ使用の場合）の電気部品に触れたり、各スイッチを操作しないこと

感電の原因になることがあります。



濡れ手禁止



注意

- 排水管に詰まりがないか始業時に点検を行うこと

排水管が詰まると、漏水から周囲を濡らす原因になることがあります。



排水点検

- 断水のときは、電源スイッチを『OFF(切)』にし、水道栓を閉めること

開けておくと通水時“赤水”が発生し、不衛生な水が機械に給水されます。



断水時閉弁

- 断水後や定休日明けの使用前には、必ず機械内部の水を入れ替えること

水の腐敗から、健康障害の原因になることがあります。



水入れ替え

- ファンネルの中には、コーヒー粉以外のものは入れないこと

本機は、コーヒーの抽出を目的として作られています。それ以外の用途には使用しないでください。



禁止

- 専用のコーヒーファンネルを外す際

専用のコーヒーファンネル内に、お湯又はコーヒーが残っている場合などは機器より取り外しの際、やけどの原因になる事があります。



ファンネル

本体のメインスイッチを入れる前に

●本体のメインスイッチを入れる前に、以下の作業をおこなってください。

- 1 専用電源(漏電遮断器付サーキットブレーカー)を入れます。
- 2 水道の元栓が開いていることを確認します。

本機の立ち上げかた

- 1 本体の「メインスイッチ」をONにします。

●「メインスイッチ」を上側にたおし、ONにします。

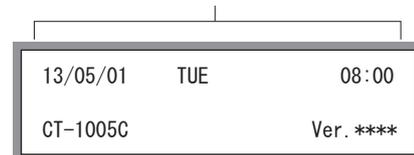
メモ

メインスイッチを2日以上切ったままにすると、日付、曜日、時刻が工場出荷時の設定に戻ります。このときは、P43「日付と時刻の設定」を参照して現在の日付と時刻に設定しなおしてください。



約3秒後、右のような表示が出ます。

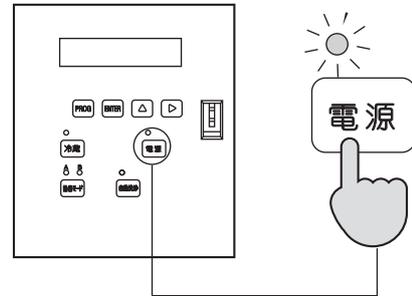
現在の日付、曜日、時刻です。



本機のプログラムのバージョンです。

2 「電源スイッチ」をONにします。

- ① 操作スイッチパネル内にある「電源スイッチ」をONにします。

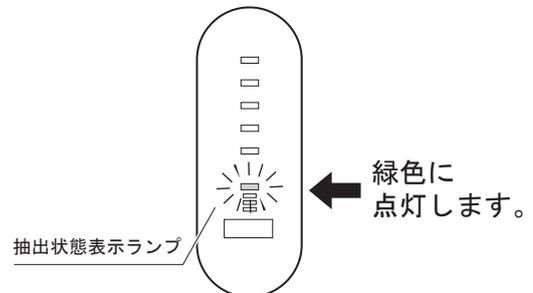


プログラムディスプレイに右のような表示があらわれます。
自動的に温水タンクへの給水がおこなわれます。給水時間は約6分です。その後、温水タンクの昇温が始まります。

オンスイタンク	キュウスイ	チュウ
ホレイ	コーヒーオンド	08°C

↑
コーヒータンク内の温度が表示されます。

- ② 温水タンク内の昇温が完了すると、抽出スイッチ部の「抽出状態表示ランプ」が緑色に点灯してコーヒーの抽出が可能になります。
昇温には約10分かかります。(水温により多少異なります)



13/05/01	TUE	08:05
ホレイ	コーヒーオンド	08°C

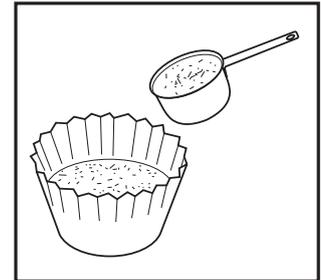
アイスコーヒーの抽出のしかた

1 アイスコーヒー粉をセットします。

- ① ペーパーフィルター（1枚）に抽出量に応じた量のアイスコーヒー粉（以下、コーヒー粉と呼びます。）を入れます。
粉計量

- コーヒー粉のめやす

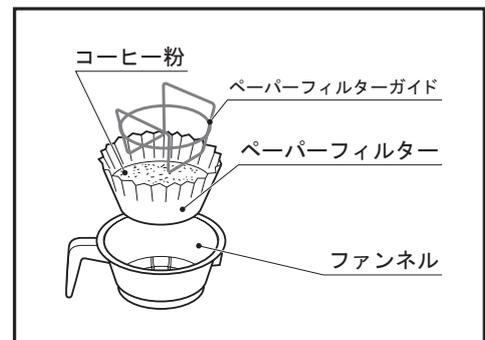
抽出量	コーヒー粉
2L	約150g
3L	約200g



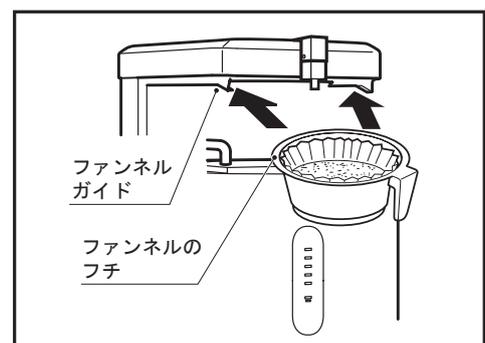
メモ

- コーヒー粉の量は豆のメッシュ、種類、好みに応じて増減してください。豆のメッシュは、中挽きが適当です。（普通のドリップ用程度）
- 1回の抽出で使用できるコーヒー粉の量は約250gまでです。250g以上で抽出をおこなうとペーパーフィルター上端からコーヒーが溢れることがあります。
- ペーパーフィルターは必ず1枚でご使用ください。誤って2枚重なったまま使用しますと、ファンネル上端よりコーヒーが溢れ、やけどの原因になることがあります。

- ② コーヒー粉を入れたペーパーフィルターをファンネルにセットします。
- 2L以下の抽出ではペーパーフィルターが内側に倒れないように、ペーパーフィルターガイドを装着してください。
 - ペーパーフィルター内のコーヒー粉が平らになるようにファンネルを軽く左右にゆすってください。

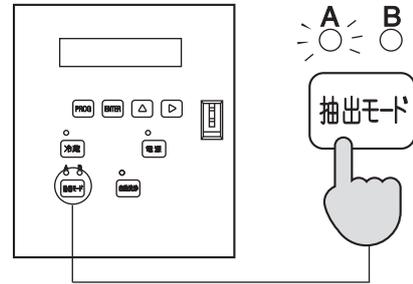


- ③ ファンネルを本体にセットします。ファンネルは、ファンネルガイドの上にファンネルのフチが乗るように正しく装着してください。



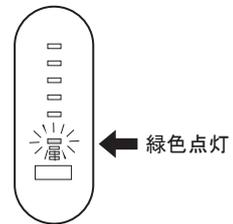
2 コーヒー粉の量に応じた抽出量を選択します。

- 「抽出モード選択スイッチ」を押して、抽出モードAかBを選びます。



●スイッチを押すたびにAとBが交互に点灯します。

3 「抽出状態表示ランプ」が緑色であることを確認します。



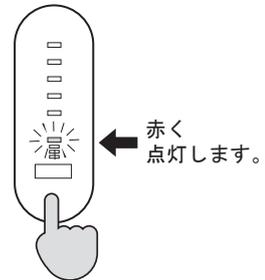
4 コーヒー抽出スイッチを押し、コーヒーを抽出します。

- ① 抽出状態表示ランプが赤く点灯して、抽出が始まります。

メモ

- ファンネル取り付け部が上がっているときは抽出スイッチを押してもブザーが鳴り、抽出はおこなわれません。また、ディスプレイには「チュウシュツタワーガアガッテイマス オロシテクダサイ」と表示されます。

- 抽出中、プログラムディスプレイには現在の抽出段階が表示されます。「チュウシュツチュウ 1」～「チュウシュツチュウ 8」はそれぞれ下記の内容をあらわしています。



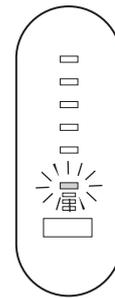
抽出段階を示しています。

表示	内容	表示	内容
チュウシュツチュウ 1	給湯 (1回目)	チュウシュツチュウ 5	給湯 (3回目)
チュウシュツチュウ 2	蒸らし	チュウシュツチュウ 6	休止 (2回目)
チュウシュツチュウ 3	給湯 (2回目)	チュウシュツチュウ 7	給湯 (4回目)
チュウシュツチュウ 4	休止 (1回目)	チュウシュツチュウ 8	コーヒー冷却中

- 抽出量や給湯方法の設定については第5章「プログラムの設定について」を参照してください。

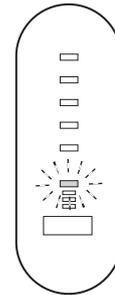
アイスコーヒーの抽出のしかた

- ② 給湯が終了すると、ランプがオレンジ色に点灯します。給湯終了から2分間は、ファンネル内に残ったお湯がコーヒータンクに落ちきるのを待ってファンネルを取り外さないでください。お湯がこぼれてやけどの原因になります。



← オレンジ色に点灯します。

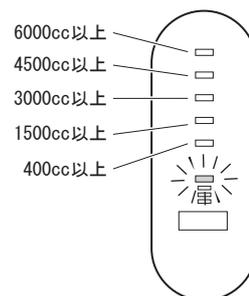
- ③ 2分後、ブザーが鳴ってランプが赤く点滅すると、ファンネルが取り外せるようになります。コーヒータンク内のコーヒーが設定した温度に冷却されるまでランプは赤く点滅を続けます。この間、追加抽出はできません。



← 赤く点滅します。

5 抽出が完了します。

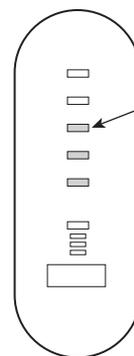
- 抽出が完了すると、「抽出状態表示ランプ」が緑色に点灯します。
- 抽出したコーヒーの量に応じて「ドリップタンク残量ランプ」が点灯します。



← 緑色に点灯します。

メモ

- コーヒータンクの中は、常に3000cc以上のコーヒーを残すようにして、コーヒーの残量が3000ccになったら次のコーヒーの抽出を行ってください。コーヒーの残量が3000cc以下の状態で抽出を行った場合、抽出中はタンク内のコーヒーの温度や濃度の変化が大きくなり、取り出すコーヒーの味が変わることがありますので注意してください。
- コーヒーの残量が3000cc以下の状態で新たにアイスコーヒーの抽出をおこなった場合は、抽出完了後15分以上経過してからアイスコーヒーの提供をおこなってください。
- 抽出途中で再度抽出スイッチを押すと抽出のキャンセルができますが、ファンネル内にお湯が残っているためキャンセルをした時点から2分間はファンネルを取り外さないでください。お湯がこぼれてやけどの原因になります。
- 抽出途中でファンネル取り付け部を持ち上げないでください。ファンネル内に残っているお湯がこぼれてやけどの原因になります。抽出は、ファンネル取り付け部を持ち上げた時点で停止します。このときもファンネル内にお湯が残っているため、停止した時点から2分間はファンネルを取り外さないでください。

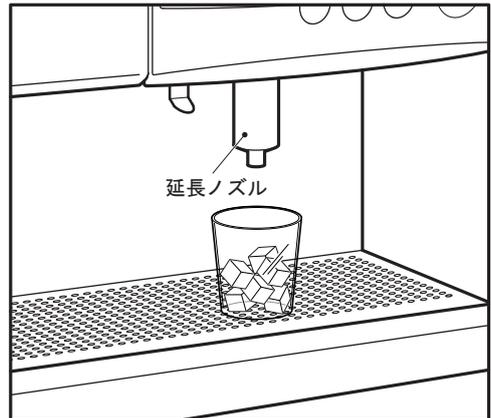


← コーヒータンク残量ランプが3レベル以下になったら、アイスコーヒーの抽出をおこなってください。

アイスコーヒーの取り出ししかた

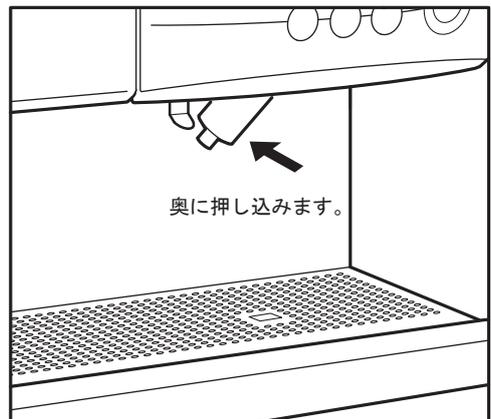
1 コーヒーノズル（延長ノズル）の下にカップを置きます。

●右のようにグラスを置きます。



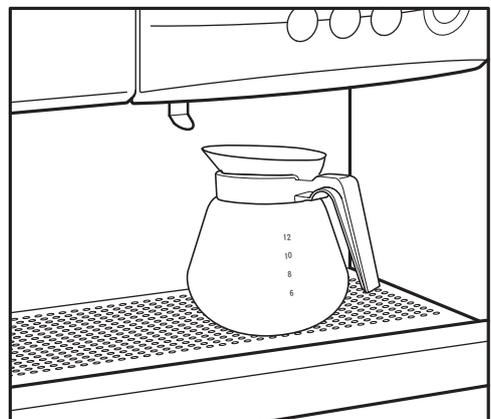
デカンタなど、背の高い容器にコーヒーを取り出す場合

延長ノズルを奥に押し込んでください。
一定の角度になると固定され、コーヒー取り出しバルブから直接コーヒーを取り出すことができます。



メモ

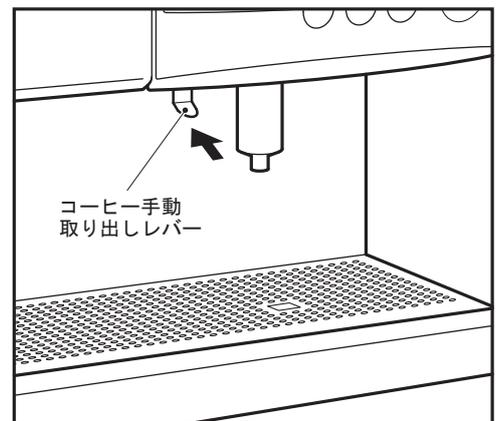
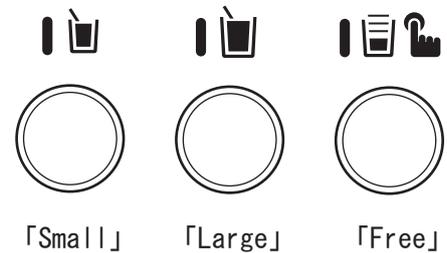
延長ノズルを使って取り出しをおこなうのは高さ10cmまでのグラスなどです。高さ10cm以上、18cmまでの容器については、延長ノズルを使用せずにコーヒーを出してください。



アイスコーヒーの取り出しかた

2 コーヒー取り出しスイッチを押します。

- コーヒー取り出しスイッチには「Small」「Large」「Free」の3種があります。スイッチを押すと、お買い上げ後の味あわせの際に設定された量のコーヒーが出て、自動的に止まります。
- 「Free」スイッチを押すとコーヒーが連続して出ます。止めるときにはもう一度スイッチを押します。
- 「コーヒー手動取り出しレバー」を使ってコーヒーを出すこともできます。手動レバーを押している間、コーヒーが出ます。量の微調整をするときなどに使用します。



メモ

- 停電時でも「コーヒー手動取り出しレバー」を押してコーヒーを出すことができます。
- コーヒー取り出しスイッチによる、コーヒー取り出し時間の設定は変更することができます。(P48参照)
- ファンネル取り付け部が持ち上げられた状態でも、コーヒー取り出しスイッチを押して、コーヒーを取り出すことができます。

2

冷蔵のしかた

この章では抽出したアイスコーヒーの冷蔵（保存）のしかたについて説明します。

アイスコーヒーの冷蔵のしかた

- 閉店後に残ったアイスコーヒーは、コーヒータンク内で翌日まで冷蔵しておくことができます。

1 一次冷却容器、一次冷却管を洗浄します。

- P22～28 **週に1～2回おこなう洗浄と清掃**を参照して一次冷却容器と一次冷却管を取り外し、洗浄します。

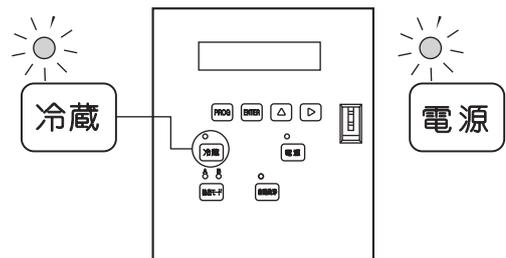
2 洗浄した一次冷却容器、一次冷却管を取り付けます。

3 「電源スイッチ」はONのまま、「冷蔵スイッチ」を3秒間押します。

- 設定された温度で冷蔵されます。
プログラムディスプレイには右のような表示があらわれます。

13/05/01 TUE	19:00
レイゾウ コーヒーオンド	09°C

- この状態でのコーヒーの抽出、コーヒーの取り出しはできません。
コーヒーの抽出、コーヒーの取り出しをおこなう場合は「冷蔵スイッチ」をOFFにしてください。コーヒーの取り出しが可能になります。
また、温水タンクの加熱が再開し、抽出可能になるとランプが緑色に点灯します。



注意！

本体の「メインスイッチ」をOFFにしてしまうとコーヒータンク内は冷蔵されません。

アイスコーヒーの冷蔵のしかた

メモ

- 「自動立ち上げタイマー」機能の自動終了を設定している場合、自動終了時刻になっても冷蔵機能は働きません。閉店後、コーヒーを冷蔵しておく場合は自動終了時刻になる前に冷蔵スイッチを3秒間押しして機械を冷蔵モードにしてください。
- 冷蔵モードの状態です自動立ち上げ時刻になると、コーヒータンクの保冷はそのまま温水タンクのお湯を沸かし、抽出可能な状態でスタンバイします。
- コーヒータンク内のコーヒーは冷蔵できますが、コーヒー取出部の中に滞留しているコーヒーには冷却力が及びません。長期間にわたってコーヒーを冷蔵するとこれらの部分で雑菌が繁殖して不衛生になります。3日に一度はコーヒータンク内のコーヒーを全部抜いて、自動洗浄してください。
- ファンネル取り付け部が持ち上げられていても冷蔵モードになりますが、冷却効果が落ちますので必ずファンネル取り付け部を下ろし、コーヒータンク蓋をセットして冷蔵してください。

3

洗浄・清掃のしかた

本機の洗浄・清掃時には必ず守ってください



警告

- 自動洗浄以外の清掃や点検のときは、必ず電源スイッチを『OFF(切)』にして、本機専用電源も『OFF(切)』にすること

感電したりやけどの原因になることがあります。



専用電源切

- 電源プラグを使用している場合、プラグを抜くときは、電源コードを持って抜かないこと

必ずプラグを持って抜いてください。電源コードを引張るとコードが傷つき、火災、感電の原因になることがあります。



禁止

- 電源プラグを使用している場合は、刃及び刃の取付面にほこりが付着していないか定期的に確認し、ガタのないように刃の根元まで確実に差し込むこと

ほこりが付着したり、接続が不完全な場合は、感電、火災の原因になります。



点検清掃

- 本機に直接水をかけないこと

漏電、ショート、感電、錆、故障の原因になります。



水掛け禁止

- 濡れた手で電源プラグなど（電源プラグ使用の場合）の電気部品に触れたり、電源スイッチを操作しないこと

感電の原因になることがあります。



濡れ手禁止

- コーヒーの抽出直後に、シャワープレートを外さないこと

シャワープレート内に残っている熱湯が落ちてきて、やけどの原因になります。



禁止

本機の洗淨・清掃時には必ず守って下さい。

注 意

●最低3日に一度は必ず自動洗淨をおこなうこと

洗淨しない場合、雑菌が繁殖して健康障害の原因になることがあります。



洗淨

●付属の酸素系漂白剤「バブルクリーン」は、口に入れたり、飲み込んだりしないこと

健康障害の原因になります。



禁止

●自動洗淨中（酸素系漂白剤「バブルクリーン」投入時）は、電源を切らないこと

コーヒータンク内に洗淨液が残ったままになり、次に抽出するコーヒーに洗淨液が混ざり健康障害の原因になります。



注意

毎日おこなう洗淨と清掃

ファンネルの洗淨

1 ファンネル内のコーヒーカスを捨てます。

- コーヒーの抽出が終了したら、すみやかにコーヒーカスをペーパーフィルターごと捨てます。

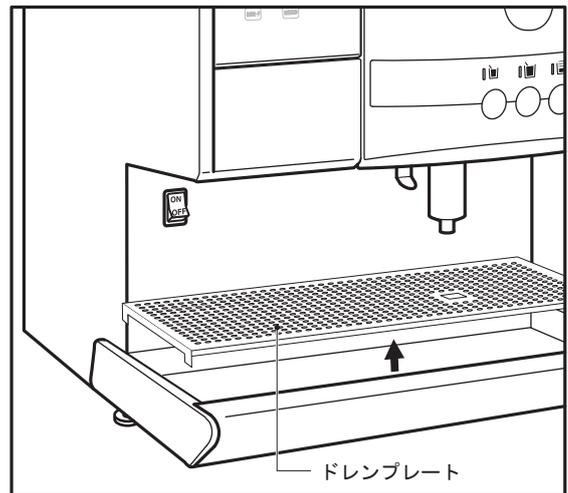
2 ファンネルを洗淨します。

- ① ファンネルを、お手持ちの食器用中性洗剤を入れた水またはお湯でいねいに洗ってください。
- ② その後、すすぎ洗いをして洗剤成分を完全に洗い流してください。
- ③ 乾いた布で水分を拭き取ってください。

ドレンプレート、ドレンパンの洗淨

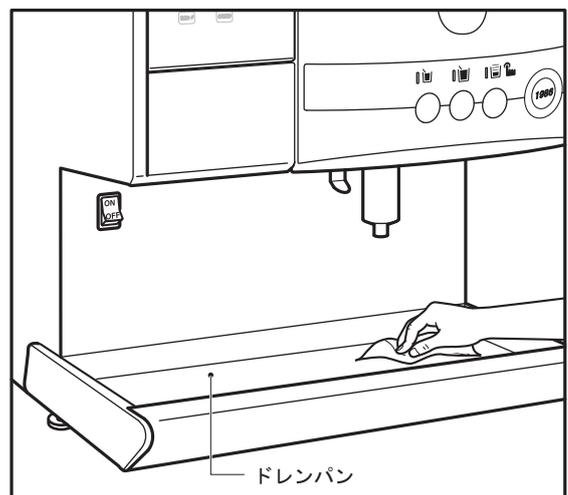
1 ドレンプレートを本体から取り外して洗淨します。

- ① ドレンプレートを、お手持ちの食器用中性洗剤を入れた水またはお湯でいねいに洗ってください。
- ② その後、すすぎ洗いをして洗剤成分を完全に洗い流してください。
- ③ 乾いた布で水分を拭き取ってください。



2 ドレンパンを清掃します。

- ① ドレンパンを、お手持ちの食器用中性洗剤を入れた水またはお湯を含ませた布などで拭いてください。
- ② その後、きれいな水でしぼった布で拭いてください。
- ③ 乾いた布で水分を拭き取ってください。



週に1～2回おこなう洗淨と清掃

ここでは週に1～2回、また、汚れが目立ったときにおこなう洗淨と清掃について説明しています。

コーヒータンクの自動洗淨

- 3日に一度は終業時にコーヒータンクの自動洗淨をおこなってください。

3日間、自動洗淨をしなかった場合、30分間に1回、30秒間ディスプレイが点滅し“ジドウ センゾウマシナガサイ”と警告メッセージが表示されます。機械の通常動作には影響しません。この自動洗淨警告表示は、自動洗淨を実施するまで消えません。機械を清潔に保ち、衛生的で良質のコーヒーを提供するためにも、必ず3日に一度は自動洗淨をおこなってください。

1 自動洗淨の準備をします。

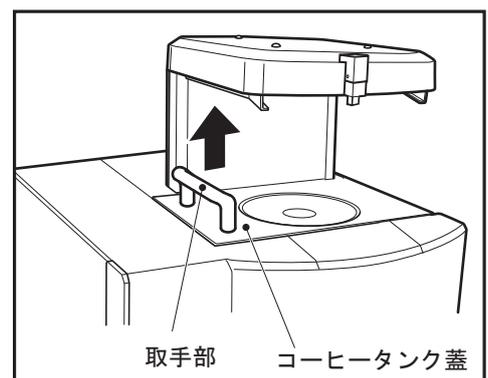
- コーヒータンクの中にコーヒーが残っている場合は、コーヒーを全て排出してください。
- 洗淨した排水の飛び散りを防ぐためコーヒーノズル（延長）の下に空のカップを置きます。



2 一次冷却容器とコーヒータンクの中に、付属の酸素系漂白剤「バブルクリーン」^{※1}を15g^{※2}ずつ入れます。

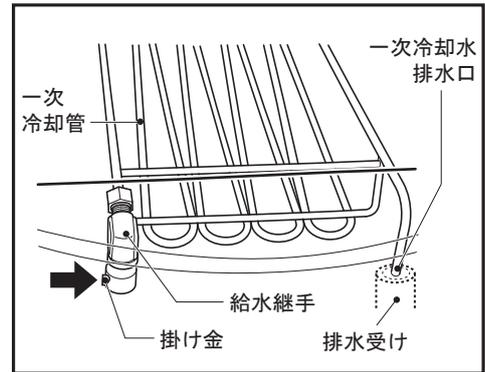
※1 酸素系漂白剤「バブルクリーン」は以下、酸素系漂白剤と呼びます。
 ※2 投入量が少ない場合は洗淨不足、投入量が多い場合は洗淨剤が溶け残る場合があります。

- ① ファンネルを本体から取り外します。
- ② コーヒータンク蓋の取手部を持ち上げ、取り外します。

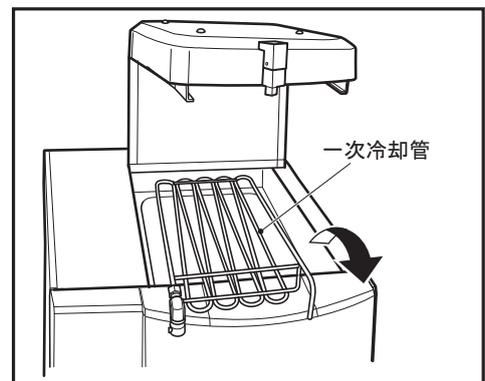


週1~2回おこなう洗淨と清掃

- ③ 一次冷却管を取り外します。
 ● 一次冷却管の手前左側にある掛け金を押します。

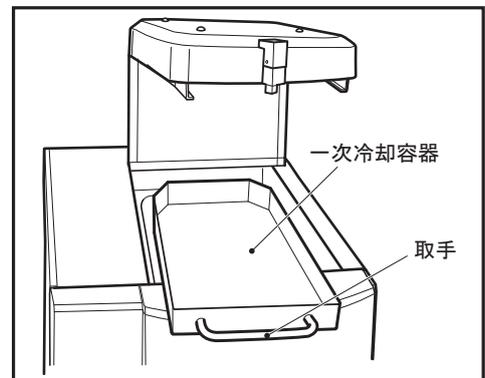


- 一次冷却管が少し浮き上がり、外れるようになります。上に持ち上げるようにして取り外します。



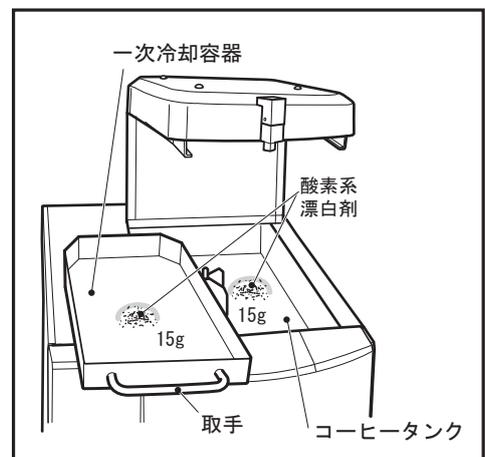
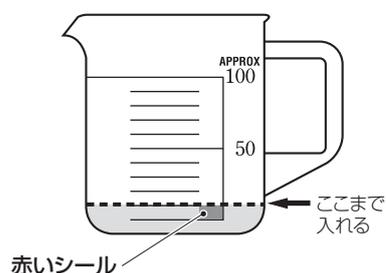
- ④ 取手を持ち上げて、一次冷却容器を取り外します。

コーヒータンクがあらわれます。



- ⑤ コーヒータンクの中に、酸素系漂白剤を15g入れます。
 一次冷却容器を取り付け、酸素系漂白剤を15g入れます。

酸素系漂白剤を15g計る場合、付属の計量カップの赤いシールの上まで酸素系漂白剤を入れてください。(酸素系漂白剤が水平になるように入れて計量してください。)



- ⑥ 一次冷却管を取り付けます。
 一次冷却管を取り付けるときは、給水継手を本体の給水継手にパチンと音がするまで押し込みます。
 この時、一次冷却管の排水口が本体の排水受けに収まるようにしてください。

- ⑦ コーヒータンク蓋、ファンネルを本体にセットします。

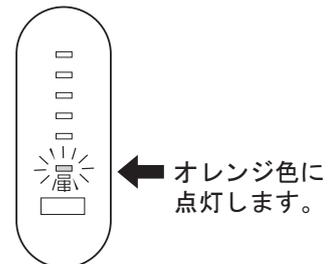
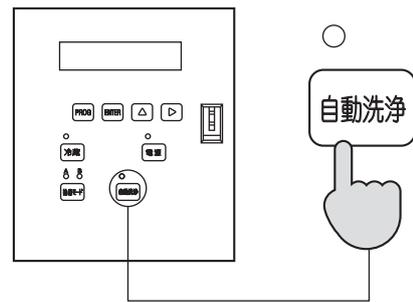
3 『自動洗淨スイッチ』を押します。

- ① 冷蔵中の場合は「冷蔵スイッチ」をOFFにします。「電源スイッチ」はONの状態にしてください。

- ② 操作スイッチパネルの『自動洗淨スイッチ』を約3秒間押します。
 抽出状態表示ランプがオレンジ色になります。

メモ

- ファンネル取り付け部が持ち上げられた状態では、「自動洗淨スイッチ」は反応しません。
- 酸素系漂白剤を入れ忘れた場合や、誤って『自動洗淨スイッチ』を押したなどの場合、もう一度『自動洗淨スイッチ』もしくは『電源スイッチ』を押すと洗淨動作をストップすることができます。なお、酸素系漂白剤投入後はすみやかに自動洗淨をおこなってください。



- ③ スイッチ上のランプが点灯して、自動洗淨に入ります。洗淨は給水、排水を3回繰り返し、開始から終了まで2時間弱かかります。

13/05/01 TUE	08:05
センジョウチュウ	1

給水、排水のくり返し回数を表示しています。
 (1サイクル約35分)

- ④ 自動洗淨が終了すると、自動的に『電源スイッチOFF』の状態になります。
 (本体の「メインスイッチ」はONのままです)

週1~2回おこなう洗浄と清掃

- 自動洗浄中は、あやまって電源をOFFにしないよう『自動洗浄中 告知札』を本体に立てかけるか、または吊るすかしてください。
- また、自動洗浄中はファンネル取り付け部を持ち上げないでください。ファンネル内に残っているお湯がこぼれてやけどの原因になります。また、ファンネル取り付け部を持ち上げた時点で自動洗浄は停止し、自動的に「電源スイッチ」がOFFになります。
- 自動洗浄中に電源がOFFになった場合は、再度電源スイッチをONにして「コーヒー取り出しスイッチ」を押し、コーヒータンク内の洗浄液を全て排出してください。その後、酸素系漂白剤をもう一度入れ、自動洗浄を最初からやり直してください。

4 酸素系漂白剤や洗浄水が残っていないかを確認します。

自動洗浄中、停電等の理由で電源が停止すると自動洗浄が正常に終了せず、本体内に洗浄液が残ったままになります。
洗浄後、最初のコーヒー抽出をおこなう際は、一次冷却容器、コーヒータンクなどを確認してください。

メモ

- コーヒータンクの自動洗浄中はアイスコーヒーの抽出および、取り出しをおこなうことができません。

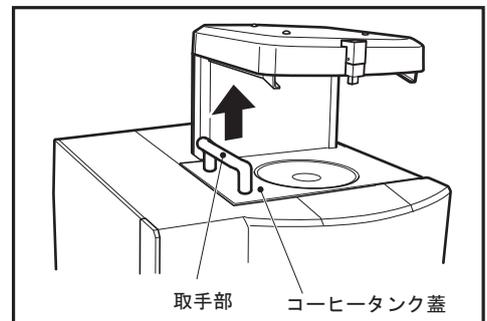
コーヒータンク内部の洗淨

- コーヒータンクの自動洗淨のほか、週に1〜2度はコーヒータンクの内部および部品の洗淨をおこなってください。あわせてP30の手動コーヒー取り出し部の洗淨をおこなっていただくと効率的に洗淨をおこなうことができます。

1 ファンネルを取り外します。

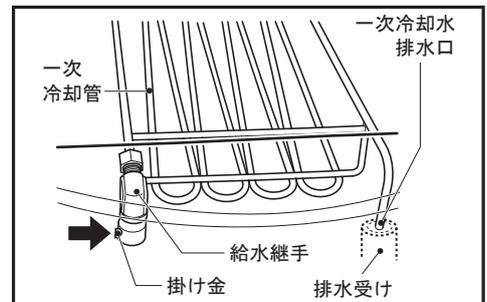
2 コーヒータンクの蓋を取り外します。

- コーヒータンク蓋の取手部を持ち上げ、取り外します。

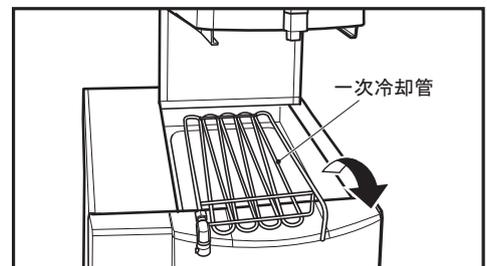


3 一次冷却管、一次冷却容器を取り外します。

- ① 一次冷却管を取り外します。
 - 一次冷却管の手前左側にある掛け金を押します。

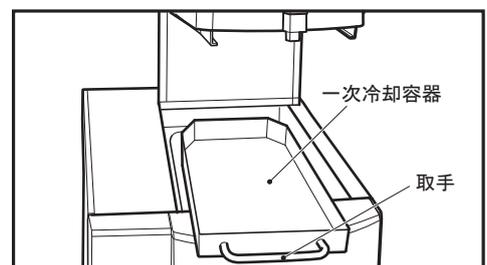


- 一次冷却管が少し浮き上がり、外れるようになります。上に持ち上げるようにして取り外します。



- ② 取手を持ち上げて、一次冷却容器を取り外します。

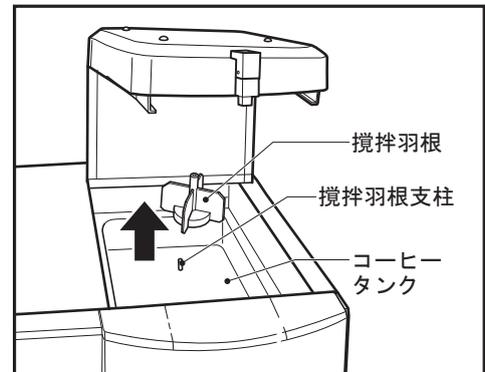
コーヒータンクがあらわれます。



週に1~2回おこなう洗淨と清掃

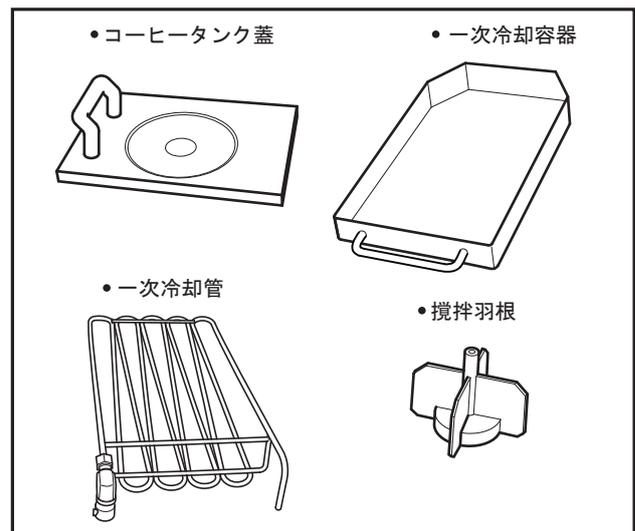
4 攪拌羽根を取り外します。

- コーヒータンクの底に付いている攪拌羽根を抜き取ります。



5 コーヒータンクの内部と取り外した各部品を洗淨します。

- ① 食器用中性洗剤をつけた柔らかいスポンジなどで洗った後、よくすすぎ洗いをします。
- ② 汚れのひどい時は酸素系漂白剤の溶液（ぬるま湯2リットルに酸素系漂白剤約15g〈付属の計量カップの赤いシールの上までの量〉を入れる）に浸け置きした後、水でよくすすぎ洗いをし、洗剤成分を完全に洗い流してください。
- ③ 乾いた布で水分を拭き取ってください。



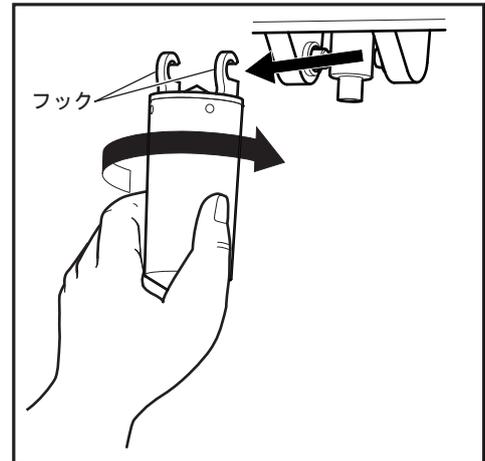
6 取り外した部品を取り付けます。

- 取り外しと逆の手順で部品を取り付けてください。

コーヒーノズル（延長ノズル）の洗淨

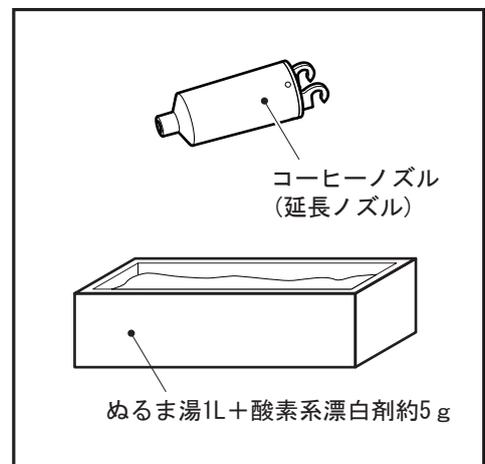
1 コーヒーノズル（延長ノズル）を取り外します。

- コーヒーノズル（延長ノズル）をつかみ、回すようにひねって取り外してください。



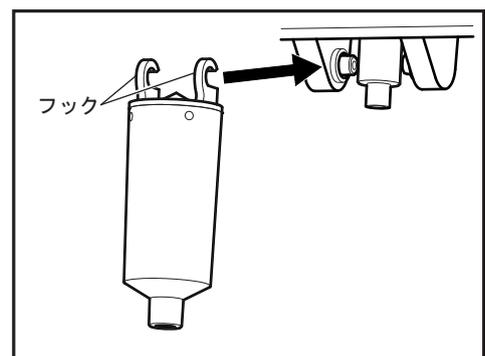
2 コーヒーノズル（延長ノズル）を洗淨します。

- ① 酸素系漂白剤の溶液（ぬるま湯1リットルに約5g）に浸け置きした後、すすぎの際ノズルをぬるま湯の中で振るなどして、ノズル内の網に付いたゴミやコーヒーあく等を洗い流してください。その際、よくすすぎ洗いをして洗淨成分を完全に洗い流してください。
- ② 十分に水洗いをし、乾いた布で水分を拭き取ってください。



3 コーヒーノズル（延長ノズル）を取り付けます。

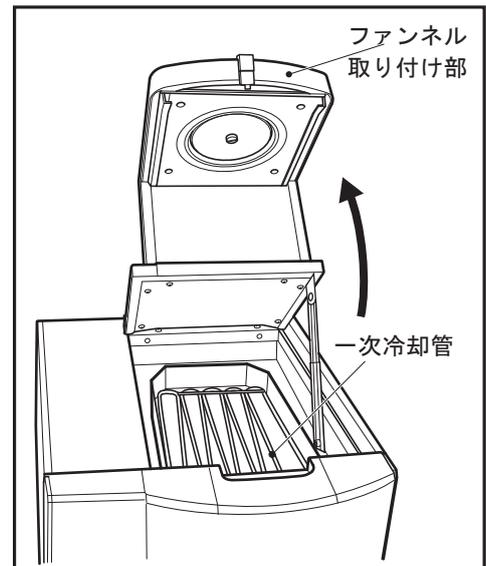
- コーヒー取り出し口にある突起部分にコーヒーノズル（延長ノズル）のフックを当てて“パチン”と音がするまで押し込んでください。



ファンネル取り付け部底面の清掃

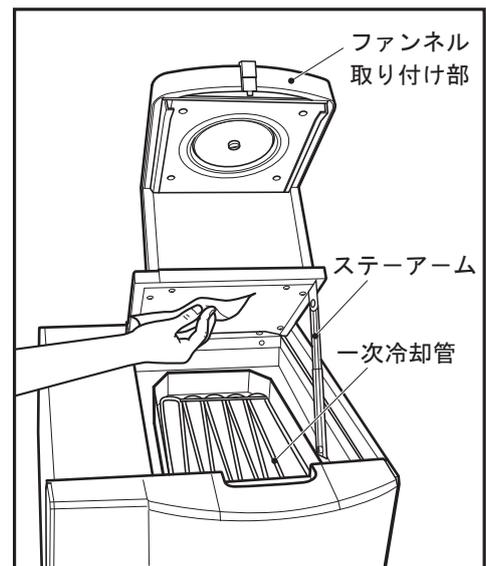
1 ファンネル取り付け部底面を清掃します。

- ① ファンネルを本体から取り外します。
- ② コーヒータンク蓋の取手を持ち上げ、取り外します。
- ③ ファンネル取り付け部分を持ち上げ、コーヒータンクを開けます。
完全に止まるまで持ち上げてください。



- ④ 中性洗剤を使用し、柔らかい布で丁寧に拭いた後、洗剤成分が残らないよう、きれいな水でしぼった布で拭き取ってください。

⚠ 本機に直接水を掛けて洗わないでください。
漏電、ショート、感電、錆、故障の原因になります。



- ⑤ ファンネル取り付け部を軽く上に持ち上げて、ステアーアームのロックを外してからファンネル取り付け部をゆっくりと下げます。
- ⑥ コーヒータンク蓋、ファンネルを本体にセットします。

手動コーヒー取り出し部の洗浄

●下記のいずれかの方法で手動取り出し部の洗浄をおこなってください。

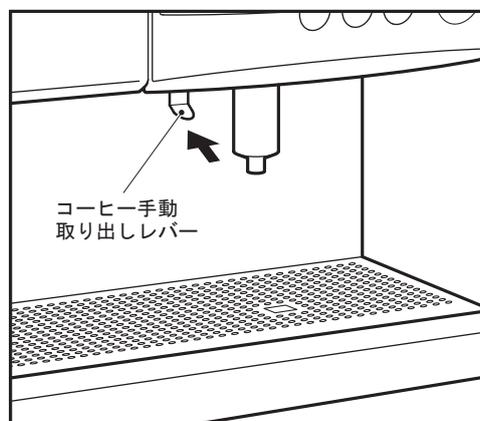
1 手動取り出し部の洗浄をします。

- ① コーヒータンク内を空にした後、3gの酸素系漂白剤と1Lのぬるま湯を入れて、よく漂白剤を溶かしてから、5回～10回コーヒー手動取り出しレバーで洗浄液を取り出してください。コーヒータンク内に残った洗浄液はすべてコーヒー取り出しスイッチ（Free）で取り出してください。
- ② 次にすすぎのため、コーヒータンク内にぬるま湯のみ2L入れてください。10回～15回コーヒー手動取り出しレバーを使用してぬるま湯を取り出して、手動コーヒーライン上をすすぎ洗いしてください。コーヒータンク内に残ったお湯はすべてコーヒー取り出しスイッチ（Free）を使用して取り出してください。

または、

1 手動取り出し部の洗浄をします。

- ① 自動洗浄中、最初にコーヒータンク内に洗浄剤が溜まりきった時に5回～10回コーヒー手動取り出しレバーで洗浄液を取り出してください。
- ② 次にコーヒータンク内の酸素系漂白剤がすべて排出され、再びコーヒータンク内にお湯が溜まりきってから10回～15回コーヒー手動取り出しレバーで手動コーヒーライン上をすすぎ洗いしてください。



本体外装の清掃

1 本体外装の清掃をします。

本体の外装は、中性洗剤を入れた水でしぼった柔らかい布で丁寧に拭いた後、洗剤成分が残らないよう、きれいな水でしぼった布で拭き取ってください。

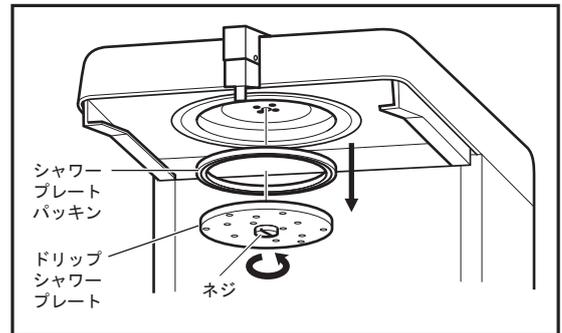
⚠ 本機に直接水を掛けて洗わないでください。
漏電、ショート、感電、錆、故障の原因になります。

1ヶ月に1回おこなう清掃

ドリップシャワープレートの洗淨

1 ドリップシャワープレートを取り外します。

- ① ドリップシャワープレート中央にあるネジを硬貨などで反時計方向に回して外します。
- ② ドリップシャワープレート、シャワープレートパッキンを外します。



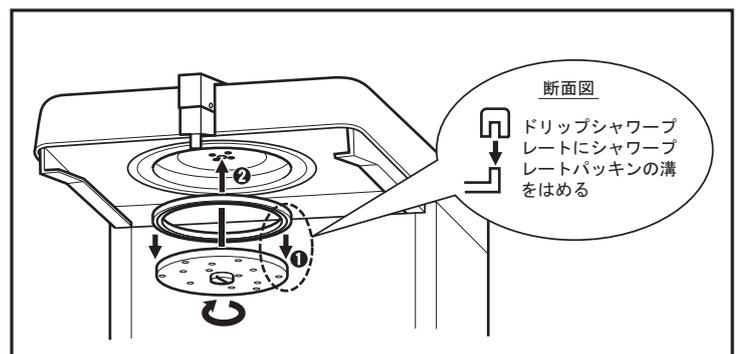
⚠️ ドリップシャワープレートの中には少量ですが、お湯が残っています。抽出直後には取り外さないでください。やけどの原因になります。

2 取り外した部品を洗淨します。

- ① ドリップシャワープレート、シャワープレートパッキンおよびネジを、お手持ちの食器用中性洗剤を入れた水またはお湯でていねいに洗ってください。
- ② お湯が出るドリップシャワープレートの穴を楊枝などを使って、詰まっていないことを確認します。
- ③ その後、すすぎ洗いをして洗剤成分を完全に洗い流してください。
- ④ 乾いた布で水分を拭き取ってください。

3 ドリップシャワープレートを取り付けます。

- ① 右図のようにして、ドリップシャワープレートにシャワープレートパッキンをはめ込みます。
- ② ドリップシャワープレート中央にあるネジを時計方向に回して、本体に取り付けます。

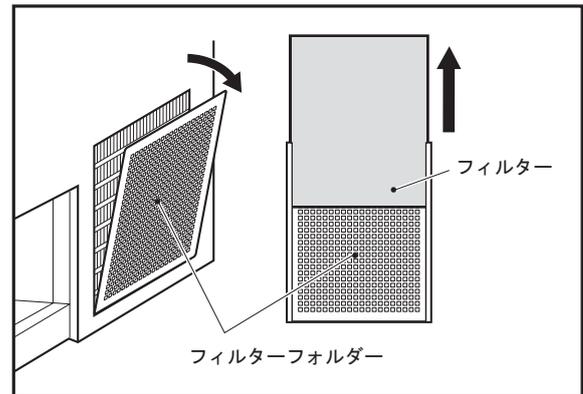


3ヶ月に1～2回おこなう清掃

- 3か月に1～2回はフィルターの清掃をおこなってください。

フィルターの清掃

- ① フィルターフォルダーは、本体にマグネットがついていますので、引っ張って外します。フィルターは右の側面に付いています。
- ② フィルターをフィルターフォルダーから抜いてください。
- ③ 掃除機でフィルターに付いているホコリを吸い取ってください。
- ④ フィルターをもとどおりに取り付けてください。



⚠ フィルターに汚れがたまると、冷却時間が長くなったり、機器故障の原因になることがあります。

浄水器について

浄水器の交換時期（ろ過能力）を過ぎると40分間に1回、20秒間ディスプレイが点滅し、“ジョウスイキヲコウカンシテクダサイ”と警告メッセージが表示されます。機械の通常動作には影響しません。この場合、浄水器カートリッジの交換と警告メッセージのリセットが必要になりますので、お買上げ店にご連絡ください。



浄水器の交換を行わない場合、抽出量が不適切になるなどアイスコーヒーの味に影響を及ぼす原因になることがあります。

4

お手入れと点検

この章では本機をお使いいただく上で、必要なお手入れと点検を一覧にして示しています。

毎日のお手入れと点検

1. 給排水管の点検	<ul style="list-style-type: none"> ●給排水管の接続部やバルブより水漏れや、配水管に詰まりがないか点検を行ってください。 異常がある場合は、すぐにお買上げ店か専門業者に修理を依頼してください。
2. ファンネルの洗浄	<ul style="list-style-type: none"> ●アイスコーヒーを抽出した後は、その都度ファンネルを洗浄してください。 第3章「洗浄・清掃のしかた」を参照して、ファンネルの洗浄をおこなってください。
3. ドレンプレート・ドレンパンの洗浄	<ul style="list-style-type: none"> ●ドレンプレート・ドレンパンは、終業時に毎日洗浄してください。 第3章「洗浄と清掃について」を参照して、ドレンプレート・ドレンパンの洗浄をおこなってください。

週に1～2回のお手入れ

1. コーヒータンクの自動洗浄	<ul style="list-style-type: none"> ●週に1～2回はコーヒータンクの自動洗浄をおこなってください。 第3章「洗浄・清掃のしかた」を参照して、コーヒータンクの洗浄をおこなってください。
2. コーヒータンク内部の洗浄	<ul style="list-style-type: none"> ●コーヒータンクの内部は週に1～2回、もしくは汚れが目立ったときに洗浄してください。 第3章「洗浄・清掃のしかた」を参照して、コーヒータンク内部と部品の洗浄をおこなってください。
3. コーヒーノズル（延長ノズル）の洗浄	<ul style="list-style-type: none"> ●コーヒーノズルは週に1～2回、もしくは汚れが目立ったときに洗浄してください。 第3章「洗浄・清掃のしかた」を参照して、コーヒーノズルの洗浄をおこなってください。
4. ファンネル取り付け部底面の清掃	<ul style="list-style-type: none"> ●ファンネル取り付け部は週に1～2回、もしくは汚れが目立ったときに清掃してください。 第3章「洗浄・清掃のしかた」を参照して、ファンネル取り付け部の底面を清掃してください。
5. 手動コーヒー取り出し部の洗浄	<ul style="list-style-type: none"> ●週に1～2回は手動コーヒー取り出し部の洗浄をおこなってください。 第3章「洗浄・清掃のしかた」を参照して、手動コーヒー取り出し部の洗浄をおこなってください。

5. 本体外装の清掃

- 本体の外装は、中性洗剤を使用し、柔らかい布で丁寧に拭いた後、洗剤成分が残らないよう、きれいな水でしぼった布で拭き取ってください。



本機に直接水を掛けて洗わないでください。
漏電、ショート、感電、錆、故障の原因になります。

1か月に1回のお手入れ

1. ドリップシャワープレートの洗浄

- ドリップシャワープレートは週に1～2回、もしくは汚れが目立ったときに洗浄してください。
第3章「洗浄・清掃のしかた」を参照して、ドリップシャワープレートの洗浄をおこなってください。

3か月に1～2回のお手入れ

フィルターの清掃

- 3か月に1～2回はフィルターの清掃をおこなってください。
- 本体の右側面にあるフィルターフォルダーを開けてフィルターを取り出し、清掃してください。

1か月に1回の点検

漏電遮断器動作確認

- 漏電遮断器は、1ヶ月に1回動作確認をおこなってください。
 - 1) 漏電遮断器のテストボタンを、指先などで押してください。
 - 2) 「OFF(切)」に切り換わるか確認してください。切り換われれば正常です。レバーが「OFF(切)」に切り換わらない場合は、そのままの状態ですぐにお買上げ店へご連絡ください。
 - 3) 正常な場合は「ON(入)」にしてください。

5

プログラム設定について

この章では本機のプログラム内容と設定のしかたについて説明しています。

プログラムの概要

プログラムモードに入るには

- プログラムの設定はプログラムモードに入っておこないます。

本体の『メインスイッチ』ON、操作スイッチパネルの『電源スイッチ』はOFFにします。



操作スイッチパネルの『プログラムスイッチ』  を押します。



ディスプレイに右のような表示があらわれます。

SELECT PROGRAM GROUP
トケイノジドウタチアゲ



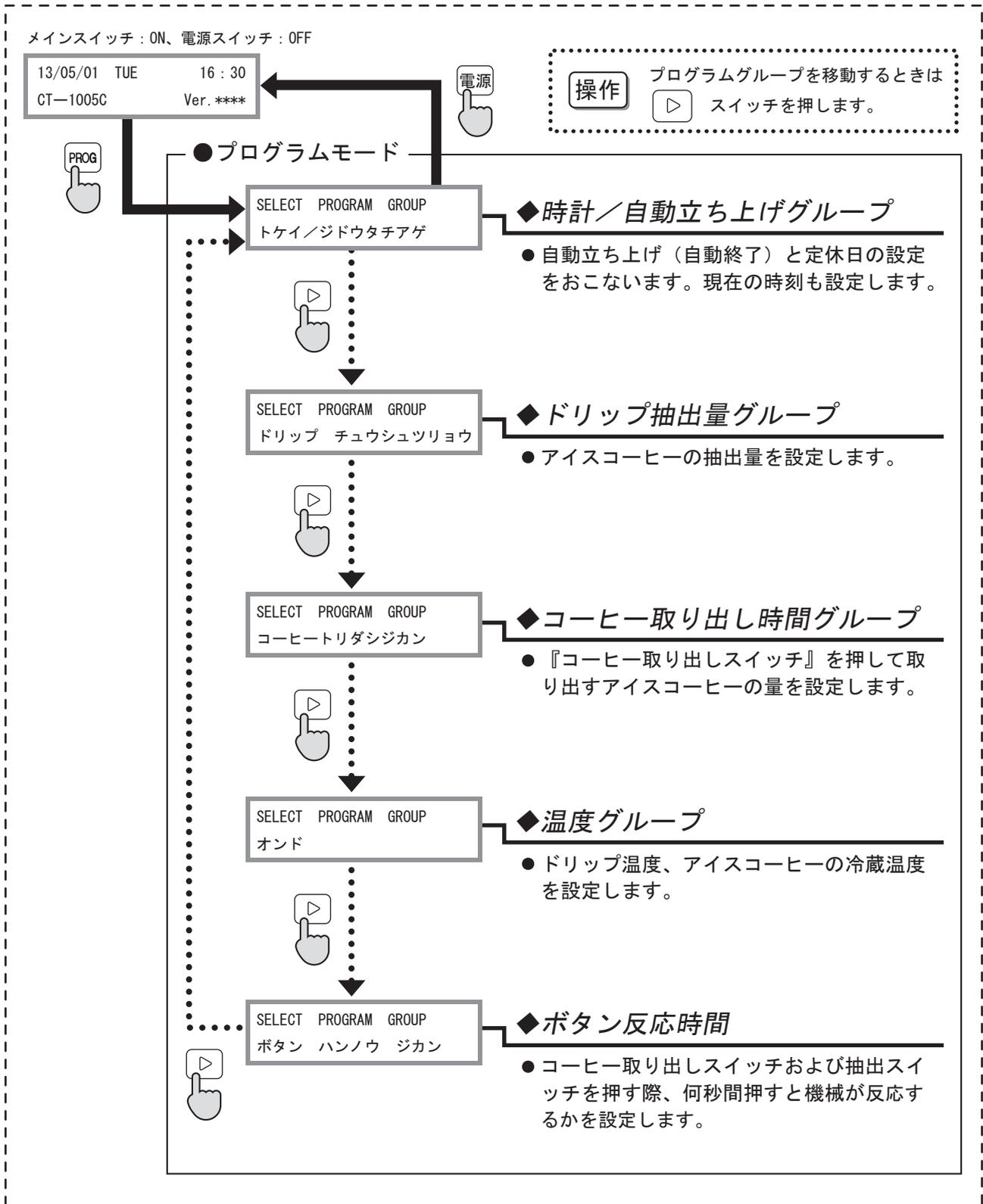
これでプログラムモードに入りました。

- プログラムの設定を終了して、通常の状態に戻るには『電源スイッチ』  を押します。
(詳しくはP37以降の「各プログラムグループの設定のしかた」を参照してください。)

各プログラムグループの設定のしかた

プログラムのグループ

- プログラムは内容によって5つのプログラムグループに分かれています。各グループの設定内容は以下のとおりです。

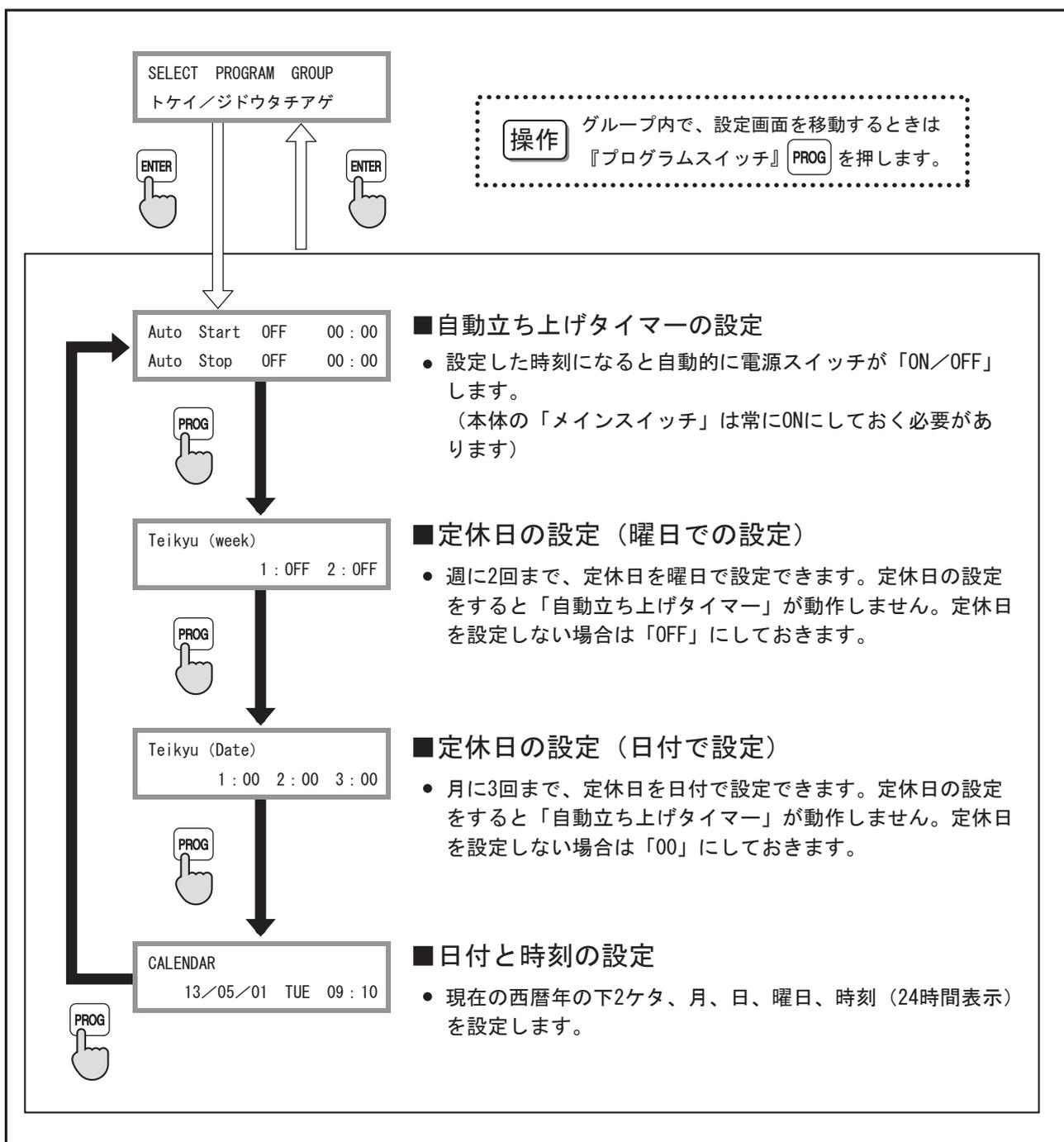


各プログラムグループの設定のしかた

ここでは、各グループごとの設定内容と設定のしかたについて説明しています。

時計／自動立ち上げグループ

●時計／自動立ち上げグループには以下の設定項目があります。



各プログラムグループの設定のしかた

■ 自動立ち上げタイマーの設定

- 「自動立ち上げ時刻」 (Auto Start) と 「自動終了時刻」 (Auto Stop) の設定をおこないます。
- 設定した 「自動立ち上げ時刻」 になると、自動的に電源スイッチがONになり、給水とウォーミングアップが始まります。その後、抽出可能な状態で待機します。
- 設定した 「自動終了時刻」 になると自動的に電源スイッチがOFFになります。(本体のメインスイッチはONのままです) ドリップタンクの自動洗浄中に 「自動終了時刻」 になった場合、自動洗浄の終了後、電源スイッチがOFFになります。
- 「自動立ち上げタイマー」 機能を使用しない場合は 「Auto Start」 「Auto Stop」 をともにOFFに設定します。

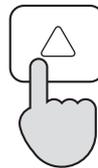
1 自動立ち上げタイマーの設定画面に入ります。

- P38を参照して 「自動立ち上げタイマー」 の設定画面に入ります。
ディスプレイに右のような表示があらわれます。

Auto Start	OFF	00 : 00
Auto Stop	OFF	00 : 00

2 自動立ち上げ時刻 (Auto Start) を設定します。

- ① 「Auto Start」 のON、OFFを設定します。
 スイッチを押すとON、OFFが交互に表示されます。
「自動立ち上げタイマー」 機能を使用する場合はONに設定します。

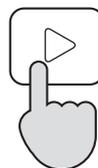


Auto Start	ON	00 : 00
Auto Stop	OFF	00 : 00



Auto Start	OFF	00 : 00
Auto Stop	OFF	00 : 00

- ② スイッチを押してカーソルを移動させます。
「自動立ち上げタイマー」 機能を使用する場合は、自動立ち上げ時刻を設定します。

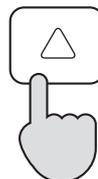


Auto Start	ON	00 : 00
Auto Stop	OFF	00 : 00

まず、「時」の設定をおこないます。

スイッチを押すと数値が大きくなります。設定したい数値が表示されたら

スイッチを押してカーソルを移動します。続いて「分」の設定をおこないます。



Auto Start	ON	07 : 00
Auto Stop	OFF	00 : 00

3 自動終了時刻（Auto Stop）を設定します。

- ① 「自動立ち上げ時刻」の設定と同様にして「自動終了時刻」を設定します。
- ② 『プログラムスイッチ』  を押すと、次の設定画面である「定休日の設定」（曜日での設定）に移ります。

●これで設定を終える場合は『エンタースイッチ』  を押します。右の画面が表示され設定内容が保存された後、ディスプレイに「時計／自動立ち上げグループ」の最初の画面があらわれます。



タダイマプログラムカキカエチュウ
シバラクオマチクダサイ



SELECT PROGRAM GROUP

トケイノジドウタチアゲ

●他の設定グループに移る場合は、
 スイッチを押します。

●他の設定グループに移らない場合は
『電源スイッチ』  を押します。
プログラムモードが終了し、『電源
スイッチ』OFFの状態に戻ります。



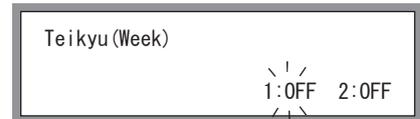
各プログラムグループの設定のしかた

■定休日の設定（曜日での設定）

- 1週間に2回まで、曜日を指定して定休日を設定できます。定休日の設定をした曜日は、「自動立ち上げタイマー」機能が動作しません。
- 定休日の設定をしない場合は“OFF”にしておきます。

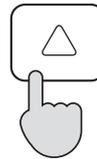
1 定休日の設定（曜日での設定）の画面に入ります。

- P38を参照して「定休日の設定（曜日）」の設定画面に入ります。
ディスプレイに右のような表示があらわれます。

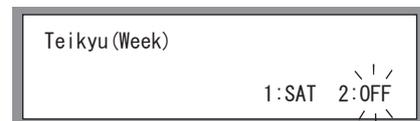
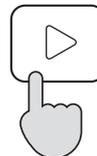


2 定休日にする曜日を設定します。

- ① 週のうち、1回目の定休日を設定します。
 スイッチを押すと、曜日が順に表示されます。曜日はアルファベットの略号で表示されます。
 SUN（日）、MON（月）、TUE（火）、
 WED（水）、THU（木）、FRI（金）、
 SAT（土）、OFF（設定しない）。

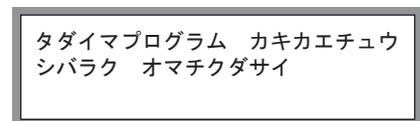


- ② 2回目の設定をおこなう場合は スイッチを押してカーソルを移動させます。①と同様にして曜日を変更します。



- ③ ●『プログラムスイッチ』 を押すと、次の設定画面である「定休日の設定（日付での設定）」に移ります。

- これで設定を終える場合は『エンタースイッチ』 を押します。右の画面が表示され設定内容が保存された後、ディスプレイに「時計／自動立ち上げグループ」の最初の画面があらわれます。



- 他の設定グループに移る場合は、
 スイッチを押します。

- 他の設定グループに移らない場合は『電源スイッチ』 を押します。プログラムモードが終了し、『電源スイッチ』OFFの状態に戻ります。

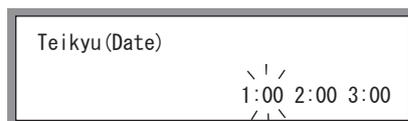


■定休日の設定（日付での設定）

- 1ヶ月に3回まで、日付を指定して定休日を設定できます。定休日の設定をした日は、「自動立ち上げタイマー」機能が動作しません。
- 定休日の設定をしない場合は“00”にしておきます。

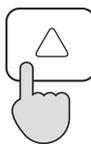
1 定休日の設定（日付での設定）の画面に入ります。

- P38を参照して「定休日の設定（日付）」の設定画面に入ります。
ディスプレイに右のような表示があらわれます。



2 定休日にする日付を設定します。

- ① 月のうち、1回目の定休日を設定します。
 スイッチを押すと、点滅する数字が10桁から1桁に移動します。

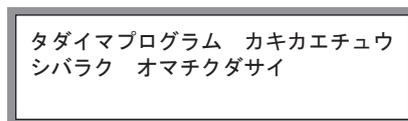


- スイッチを押すと数字が大きくなります。設定したい日付にします。

- ② 2回目以降の定休日を設定する場合は
 スイッチを押してカーソルを移動します。①と同様にして日付を変更します。



- ③ ●『プログラムスイッチ』 を押すと、次の設定画面である日付と時刻の設定に移ります。



- これで設定を終える場合は『エンタースイッチ』 を押します。右の画面が表示され設定内容が保存された後、ディスプレイに「時計／自動立ち上げグループ」の最初の画面があらわれます。



- 他のプログラムグループに移る場合は、 スイッチを押します。



- 他のプログラムグループに移らない場合は『電源スイッチ』 を押します。プログラムモードが終了し、『電源スイッチ』OFFの状態に戻ります。



■ 日付と時刻の設定

- 現在の日付と時刻を設定します。メインスイッチを2日以上切ったままにすると日付、曜日、時刻（カレンダー）が工場出荷時の設定に戻ります。

1 日付と時刻の設定画面に入ります。

- P38を参照して「日付と時刻」の設定画面に入ります。ディスプレイに右のような表示があらわれます。

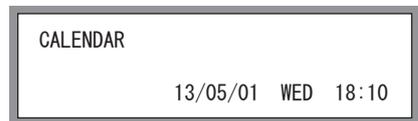
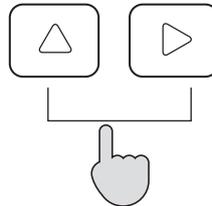


2 日付と時刻を設定します。

- ① “年”を西暦の下2ケタで設定します。
 - ▷ スイッチを押すと、点滅する数字が10桁から1桁に移動します。
 - △ スイッチを押すと数字が大きくなります。設定したい“年”を表示します。

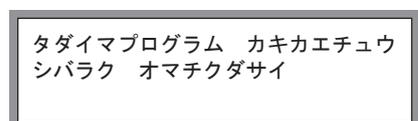


- ② “月”の設定をします。▷ スイッチを押してカーソルを移動します。①と同様にして“月”を変更します。



- ③ ①、②の手順を繰り返して、日付、曜日、時、分を変更します。

- ④ ●『プログラムスイッチ』[PROG]を押すと、最初の設定画面である「自動立ち上げタイマーの設定」に戻ります。



- これで設定を終える場合は『エンタースイッチ』[ENTER]を押します。右の画面が表示され設定内容が保存された後、ディスプレイに「時計／自動立ち上げグループ」の最初の画面があらわれます。



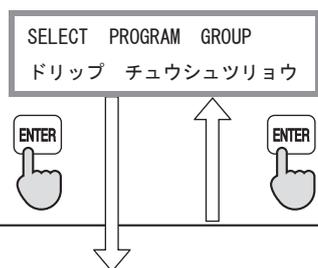
- 他の設定をおこなう場合は▷ スイッチを押します。

- 他の設定グループに移らない場合は『電源スイッチ』[電源]を押します。プログラムモードを終了し、『電源スイッチ』OFFの状態に戻ります。



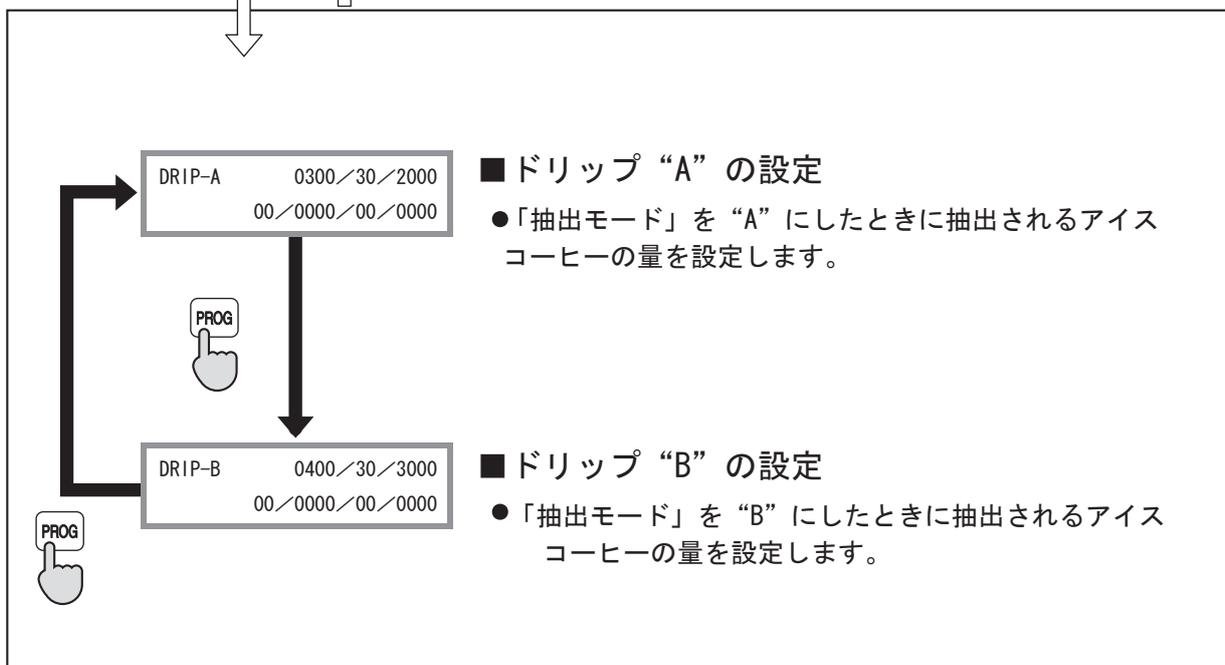
ドリップ抽出グループ

- ドリップ抽出グループには以下の設定項目があります。



操作

グループ内で、設定画面を移動するときは『プログラムスイッチ』PROGを押します。



■ドリップ“A”の設定

- 「抽出モード」を“A”にしたときに抽出されるアイスコーヒーの量を設定します。

■ドリップ“B”の設定

- 「抽出モード」を“B”にしたときに抽出されるアイスコーヒーの量を設定します。

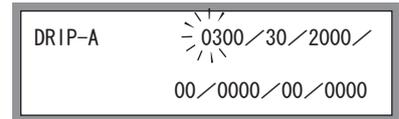
各プログラムグループの設定のしかた

■ ドリップ (A・B) の設定

- アイスコーヒーの抽出設定のしかたについて説明します。

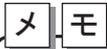
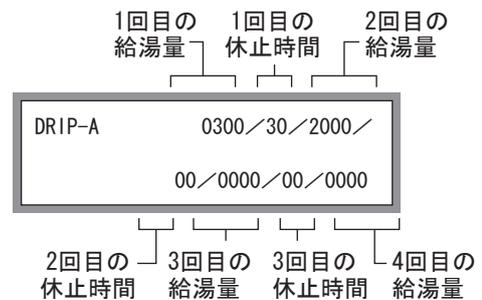
1 ドリップ “A” の設定画面に入ります。

- P44を参照して「ドリップ “A”」の設定画面に入ります。
ディスプレイに右のような表示があらわれます。



2 設定画面の数値は以下のことをあらわしています。

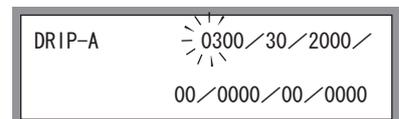
- アイスコーヒーは、最大4回に分割して給湯することができます。
- 給湯量の単位は「cc」で、10cc刻みで設定できます。
“0000”～“9990”まで設定できます。
- 休止時間の単位は「秒」です。
“00”～“99”まで設定できます。



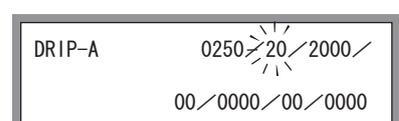
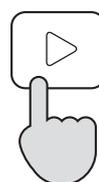
- アイスコーヒータンクの容量は6300ccです。給湯量がこの量を超えないように設定をおこなってください。
- 実際の抽出設定については、P47の抽出設定のヒントを参照してください。

3 ドリップ “A” の抽出設定をおこないます。

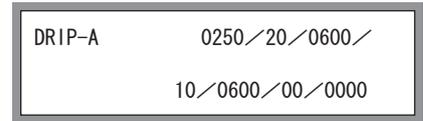
- ① 1回目の給湯量を設定します。
▶ スイッチを押すと、点滅する数字が右に移動します。△ スイッチを押して、設定したい数値を表示します。



- ② 1回目の休止時間を設定します。
▶ スイッチを押してカーソルを移動します。①と同様にして数値を変更します。



- ③ ①、②の手順を繰り返して、「2回目の給湯量」以降の設定をおこないます。工程を途中で終える場合は休止時間を“00”に設定します。

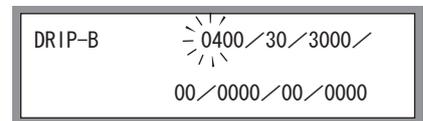


- 3回目の給湯で終了する場合 “00” を設定します。

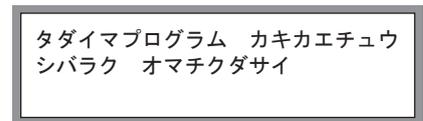
- ④ 『プログラムスイッチ』 **PROG** を押すと、次の設定画面である「ドリップ “B”」に移ります。

4 ドリップ “B” の設定も、同様の手順でおこないます。

- ① 1 ~ 3 の手順を繰り返して「ドリップ “B”」の設定をおこないます。



- ② 『プログラムスイッチ』 **PROG** を押すと、次の設定画面である「ドリップ “A”」に移ります。



- これで設定を終える場合は『エンタースイッチ』 **ENTER** を押します。右の画面が表示され設定内容が保存された後、ディスプレイに「ドリップ抽出グループ」の最初の画面があらわれます。



- 次の設定グループに移る場合は **▶** スイッチを押しています。



- 次の設定グループに移らない場合は『電源スイッチ』 **電源** を押します。プログラムモードが終了し、『電源スイッチ』OFFの状態に戻ります。



抽出設定のヒント

1. 挽豆全体に十分ゆきわたる量のお湯をかける。(1回目の給湯)
2. 20～40秒の間放置する。(1回目の休止=むらし)
3. とりたいコーヒー量相当のお湯をかける。(2回目以降の給湯=本抽出)

各々の設定量として下記を目安にしてください。

●1回目の湯量

使用する挽豆 (g) の2倍の湯量 (cc) を目安とします。

使用するコーヒー豆の種類、焙煎度合い、挽き具合 (メッシュ) などによって豆が吸う湯量は異なります。また、ペーパーフィルターも湯を吸収するので、実際に抽出をしてみて給湯量を決定してください。ファンネルの下からいくらかコーヒーが落ちてくる状態で、ファンネル内の挽豆全体が十分濡れているのが理想です。

●むらし時間

少量抽出の場合は、抽出時間が短めになりますので、むらし時間を長めにとった方が良いでしょう。

逆に、大量抽出では、抽出時間が長くなりますので、抽出過多とならないよう短めにします。

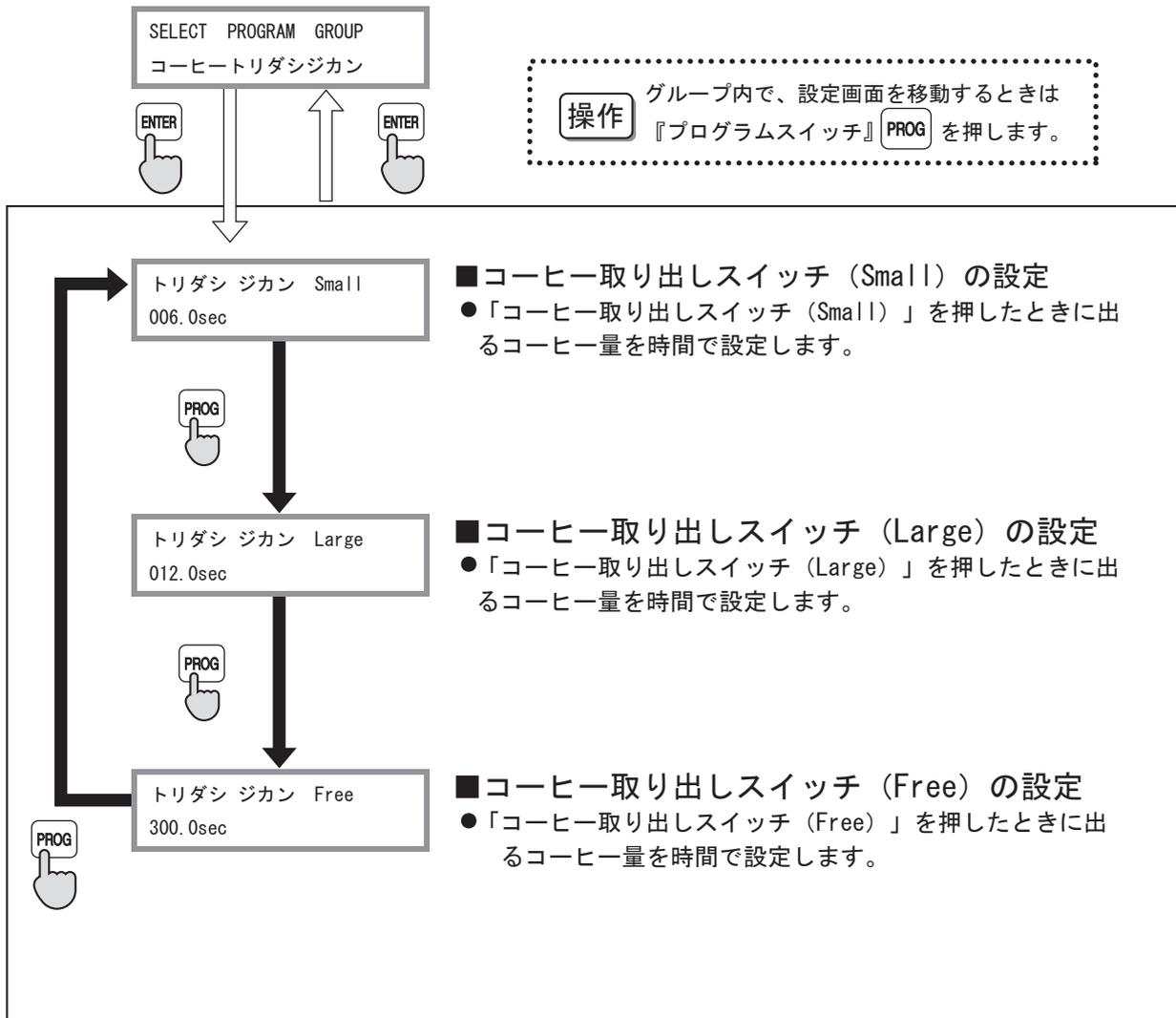
●本抽出

少量抽出では抽出時間が短い分、薄いコーヒーとなりやすいので、これを2分割ないし3分割して間に休止時間をとります。ハンドドリップで2回、3回の分割給湯するのと似た状況を作り出して、抽出過少をカバーすることができます。

2L前後の抽出量より少ない場合には、本抽出を3分割して、間に10～20秒の休止時間を入れると良いでしょう。

コーヒー取り出し時間グループ

- コーヒー取り出し時間グループには以下の設定項目があります。



各プログラムグループの設定のしかた

■ コーヒー取り出し時間（「Small」「Large」「Free」とも）の設定

- コーヒー取り出しスイッチを押すと出るコーヒー量の調整をします。

1 コーヒー取り出しスイッチ (Small) (トリダシジカン Small) の設定画面に入ります。

- P48を参照して「トリダシジカン Small」の設定画面に入ります。
ディスプレイに右のような表示があらわれます。

トリダシ ジカン Small
006.0sec

2 アイスコーヒーを出す時間を設定します。

- アイスコーヒーを出す時間を設定します。
単位は「秒」です。“000.1”～“999.9”
まで設定できます。1秒間に約20ccのコー
ヒーが出ます。（コーヒー残量が少なくな
り残量ランプがすべて消灯すると、時間あ
たりのコーヒー取り出し量がばらつきやす
くなります。）



トリダシ ジカン Small
020.0sec

- ▶ スイッチを押すと、点滅する数字が右に移動します。△ スイッチを押して、設定したい数値を表示します。

- 『プログラムスイッチ』 **PROG** を押すと、次の設定画面である「トリダシジカン Large」に移ります。

3 コーヒー取り出しスイッチ (Large)、(Free) の設定も同様におこないます。

- ① 1・2 の手順を繰り返して「コーヒー取り出しスイッチ (Large)」（トリダシジカン Large）および「コーヒー取り出しスイッチ (Free)」（トリダシジカン Free）の設定をおこないます。



トリダシ ジカン Large
012.0sec



トリダシ ジカン Large
999.9sec

- ② ● 『エンタースイッチ』 **ENTER** を押します。
右の画面が表示され設定内容が保存された後、ディスプレイに「コーヒー取り出し時間グループ」の最初の画面があらわれます。



タダイマプログラム カキカエチュウ
シバラク オマチクダサイ

- 他の設定グループに移る場合は ▶ スイッチを押します。



SELECT PROGRAM GROUP
コーヒートリダシジカン

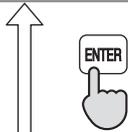
- 他の設定グループに移らない場合は『電源スイッチ』 **電源** を押します。
プログラムモードが終了し、『電源スイッチ』OFFの状態に戻ります。



温度グループ

- 温度グループには以下の設定項目があります。

SELECT PROGRAM GROUP
オンド



操作

グループ内で、設定画面を移動するときは『プログラムスイッチ』PROG を押します。

ドリップ オンド 91°C

■ ドリップ温度の設定

- コーヒーの抽出をするお湯の温度を設定します。



Coffee レイキャク オンド 08°C

■ コーヒー冷蔵温度の設定

- コーヒータンクの冷蔵温度を設定します。



各プログラムグループの設定のしかた

■ ドリップ温度の設定

- アイスコーヒーを抽出する際の湯温を設定します。

1 ドリップ温度の設定画面に入ります。

- P50を参照して「ドリップ温度」の設定画面に入ります。
ディスプレイに右のような表示があらわれます。



2 ドリップ温度の設定をおこないます。

- ① ドリップ温度を設定します。
単位は「°C」です。“00”～“99”まで設定できますが、下記の注意が必要です。
▶ スイッチを押すと、点滅する数字が右に移動します。△ スイッチを押して、設定したい数値にします。



- 『プログラムスイッチ』 **PROG** を押すと、次の設定画面である「Coffee レイキャク オンド」に移ります。

注意！

- 「ドリップ温度」を必要以上に高い温度に設定すると、お湯に気泡が生じ、コーヒー抽出量が不安定になります。また、97°C以上に設定すると、オーバーフローした熱湯がドレンパンに流れ、ドレンプレートの穴から湯気が噴き出します。
「ドリップ温度」は必ず85°C～97°Cの範囲内で設定してください。

- これで設定を終える場合は『エンタースイッチ』を押します。右の画面が表示され設定内容が保存された後、ディスプレイに「温度グループ」の最初の画面があらわれます。



タダイマプログラム カキカエチュウ
シバラク オマチクダサイ



SELECT PROGRAM GROUP
オンド

- 他の設定グループに移る場合はスイッチを押します。



- 他の設定グループに移らない場合は『電源スイッチ』を押します。プログラムモードが終了し、『電源スイッチ』OFFの状態に戻ります。



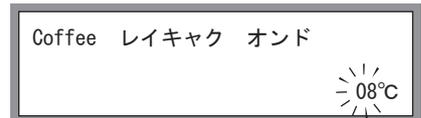
各プログラムグループの設定のしかた

■アイスコーヒー冷蔵温度の設定

- コーヒータンクの冷蔵温度を設定します。

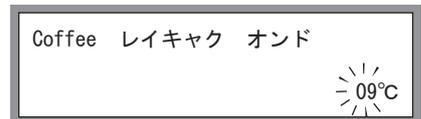
1 コーヒー冷蔵温度 (Coffeeレイキャクオンド) の設定画面に入ります。

- P50を参照して「Coffeeレイキャクオンド」の設定画面に入ります。
ディスプレイに右のような表示があらわれます。



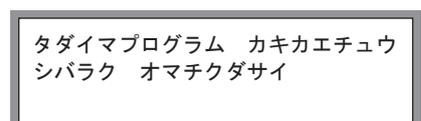
2 冷蔵温度を設定します。

- ① アイスコーヒーの冷蔵温度を設定します。標準設定温度は8°Cとなっています。設定温度は“00°C”～“99°C”まで変更可能となっていますが、コーヒータンクの凍りつきを防止するため8°C以上に設定してください。
▶ スイッチを押すと、点滅する数字が右に移動します。△ スイッチを押して設定したい数値を表示します。



⚠ 7°C未満に設定されますと、コーヒータンクが凍りつき
コーヒーの風味の劣化や攪拌不良の原因になる場合があります。

- ② ●『エンタースイッチ』**ENTER**を押します。右の画面が表示され設定内容が保存された後、ディスプレイに「温度グループ」の最初の画面があらわれます。



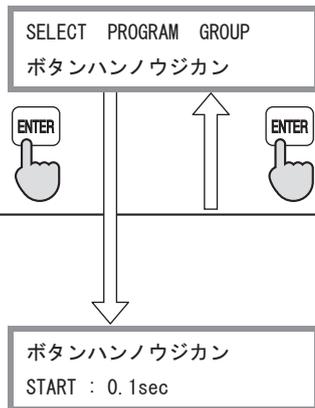
- 他の設定グループに移る場合は
▶ スイッチを押します。



- 他の設定グループに移らない場合は『電源スイッチ』**電源**を押します。プログラムモードが終了し、『電源スイッチ』OFFの状態に戻ります。



ボタン反応時間



■ 取り出しスイッチ反応時間の設定

- 『コーヒー取り出しスイッチ』および『抽出スイッチ』を押す際、何秒間押すと機械が反応するかを設定します。

各プログラムグループの設定のしかた

■ ボタン反応時間の設定

- 『コーヒー取り出しスイッチ』 および 『抽出スイッチ』 を押す際、何秒間押すと機械が反応するかを設定します。

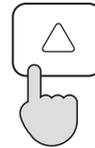
1 ボタン反応時間の設定画面に入ります。

- P54を参照して「ボタン反応時間」の設定画面に入ります。
ディスプレイに右のような表示があらわれます。

ボタンハンノウジカン
START : 0.1sec

2 反応時間を設定します。

- ① 反応時間を設定します。
単位は「0.1秒」です。0.0秒～9.9秒まで設定できます。
▶ スイッチを押すと、点滅する数字が右に移動します。△ スイッチを押して、設定したい数値にします。



ボタンハンノウジカン
START : 0.2sec

- ② 『エンタースイッチ』 **ENTER** を押します。
右の画面が表示され設定内容が保存された後、ディスプレイに「ボタンハンノウジカン」の最初の画面があらわれます。



タダイマプログラム カキカエチュウ
シバラク オマチクダサイ



SELECT PROGRAM GROUP
ボタンハンノウジカン

- 他の設定グループに移る場合は ▶ スイッチを押します。



- 他の設定グループに移らない場合は 『電源スイッチ』 **電源** を押します。プログラムモードが終了し、『電源スイッチ』 OFFの状態に戻ります。



6

据付けについて

本機の据付け時には必ず守ってください



警告

- 据付工事は、お買上げ店または専門業者に依頼すること

ご自分で据付工事をされ不備があると、感電、火災の原因になります。



専門業者

- アース工事を必ず行うこと

アース線はガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。
アースが不完全な場合は、感電の原因になります。

(電気工事士によるD種接地工事が必要ですので、電気工事店に依頼してください。)



アース工事

- 本機の電源は、専用の漏電遮断器付サーキットブレーカもしくは、それと同等の設備に直接接続すること

電源コードは途中で接続したり、延長コードの使用、およびタコ足配線をした場合には、感電や発熱、火災の原因になります。



専用電源

- 電気工事は、「電気設備に関する技術基準」、「内線規定」に従って施工し、必ず専用回路を使用すること

電源回路不良、容量不足や施工不備があると、感電、火災の原因になることがあります。



電気工事

- 湿気の多い所や、水のかかり易い場所に据付けないこと

絶縁低下から漏電、感電の原因になります。



湿気禁止

- 電源コードを傷つけないこと

加工したり、引っ張ったり、たばねたり、また重いものを乗せたり、挟み込んだりすると、電源コードが破損し、感電、火災の原因になります。



禁止

⚠ 注 意

●床面が丈夫で平らな所に水平になるように据付けること

据付けに不備があると転倒、落下によるケガなどの原因になることがあります。



水平据付

●機械左右の側面は、壁および物から100mm以上、背面も100mm以上空けること

熱がこもると、電気部品に影響をおよぼし、故障の原因になることがあります。



周囲空ける

●直射日光の当たる所や、周囲の温度が32℃を超える高温の場所には据付けないこと

電気部品の故障の原因になります。



高温禁止

●水をこぼしてもよい所に据付けること

使用中にコーヒーや湯、蒸気などが周囲に飛び散ることがありますので、濡れると不都合なところでは、防止処置をしてください。



防水処置

●凍結の恐れのある場所へは据付けないこと

機械の故障の原因および、給水管の破裂から浸水し、周囲を濡らす原因になることがあります。凍結の恐れのある場所への据付けの場合は、お買上げ店にご相談ください。



相談

●給水に使用する水は、必ず飲料水を使用すること

他の水は、健康障害の原因になることがあります。



飲料水

●水道圧力は、流れている状態で0.1MPa以上で使用する

水圧が低いと、機械は正常に動作しません。0.1MPa以下の場合は、お買上げ店にご相談ください。



適正水圧

据付工事

はじめに、下記の配管用付属品がそろっているか確認してください。

配管用部品

1. ステンレスフレキシブルホース (1.0m) 1本
2. 排水用ドレンホース (2.0m) 1本
3. 排水用エルボ 1個
4. 排水用ストレート継手 1個
5. 減圧弁 1個
6. 両ナット付アダプター 1個

〈別売品〉

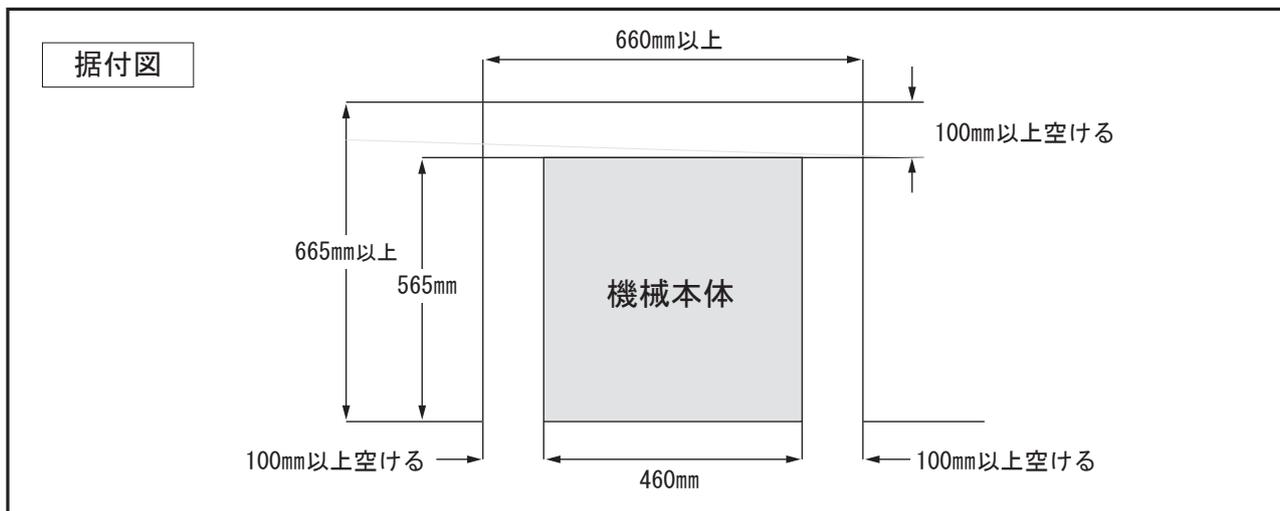
1. 浄水器ヘッド (エバピュアQC7型 異径ニップル3/8×1/2付) 1個
2. 浄水器カートリッジ (7CB5-S) 1個
3. ステンレスフレキシブルホース (1.5m) 1本

据付前の準備

- 本機を据付けされるには、事前に下記の設備をお客様側にて行っていただく必要があります。

据付台

- ① 据付台の下には、浄水器、配管設備のスペースが必要です。
目安として、機械本体と同等のスペース (面積) を確保してください。
- ② 機械の周辺は、壁面から100mm以上離してください。
特に機械の両側面は、電子制御部品がありますので、必ず空けておいてください。
据付台の上方には、清掃時にファンネル取り付け部を持ち上げるのに支障のない高さ1000mm以上のスペースを確保してください。

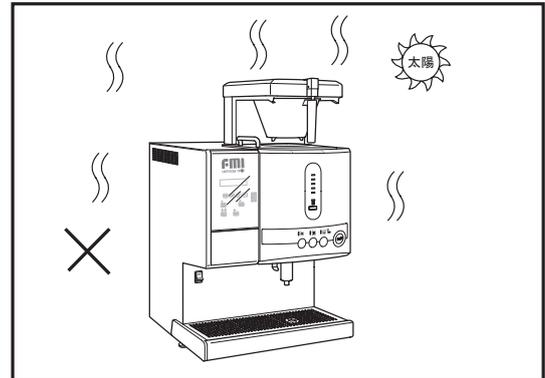


据付工事

① 据付ける場所として、次のことに注意してください。

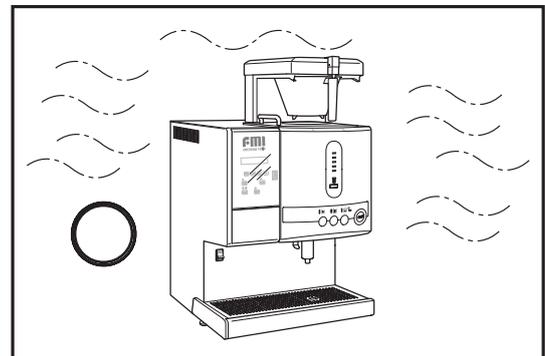
- 1) 直射日光の当たる所や、機械の周囲の温度が32°Cを超える高温の場所には据付けないでください。

高温になると、電気部品の故障の原因となります。



- 2) 風通しの良い所に据付けてください。

風通しが悪いと蒸気がこもり、機械の寿命を短くしたり漏電の原因となります。

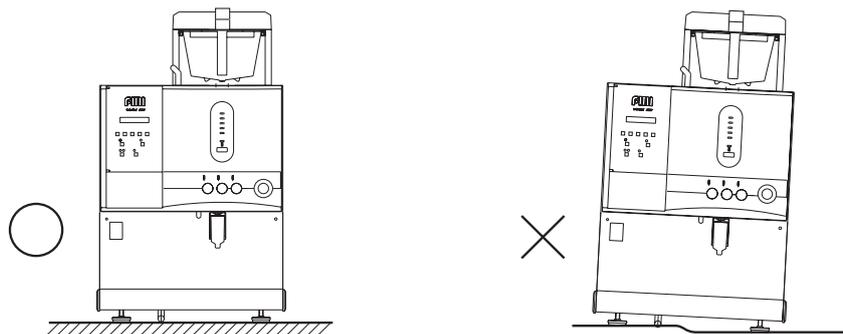


- 3) 水をこぼしてもよい所へ据付けてください。

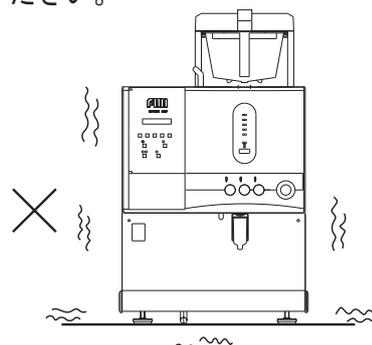
使用中にコーヒーや湯、蒸気などが周囲に散ることがありますので、漏れると不都合な所では、防水処置をしてください。

- 4) 丈夫で凹凸のない、水平な台へ据付けてください。

(アジャスト脚で水平に保つことができます。)



- 5) 振動のない所へ据付けてください。

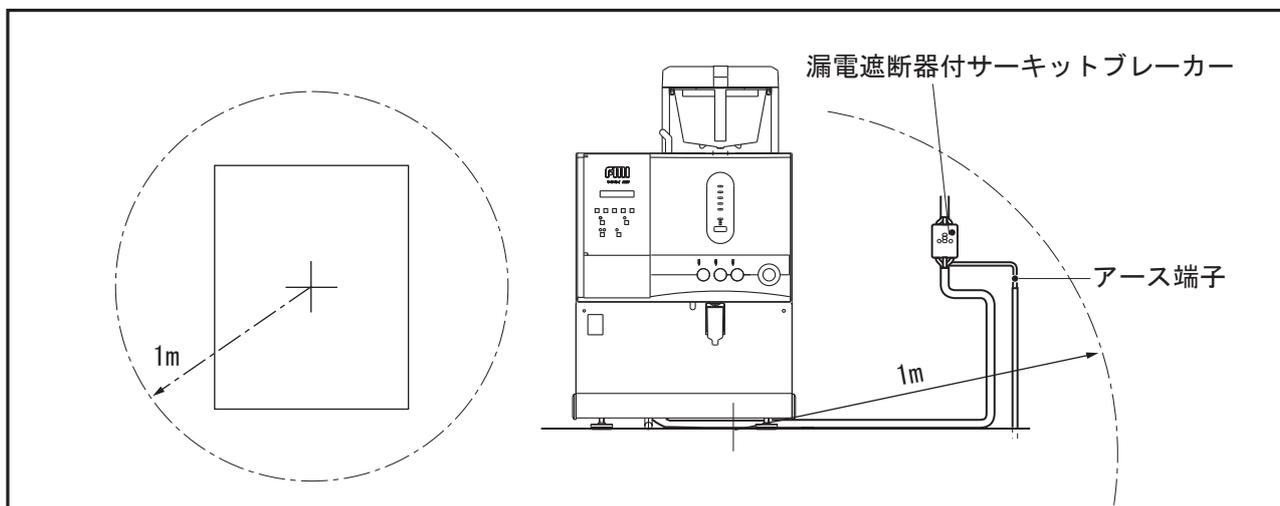


水道

- ① 水道栓は、ステンレスフレキシブルホースが取り付けられるように、コックの先に「G1/2 オスネジ」付のものを用意してください。
- ② 水道圧力は、流れている状態で「0.1MPa以上、0.5MPa未満」が必要です。
水圧が低いと、機械が正常に動作しないことがあります。また、水圧が高すぎると水漏れの原因になることがあります。範囲を超えている場合は、機械の調整を要しますのでお買上げ店にご相談ください。
- ③ 給水に使用する水は、必ず飲料水を使用してください。
飲料水以外の水は、健康障害の原因になります。
- ④ 凍結の恐れのある場所へは据え付けしないでください。
故障の原因および、給水管の破裂から浸水し、周囲を濡らす原因になることがあります。寒冷地など、凍結の恐れのある場所へ据え付けの場合は、お買上げ店にご相談ください。

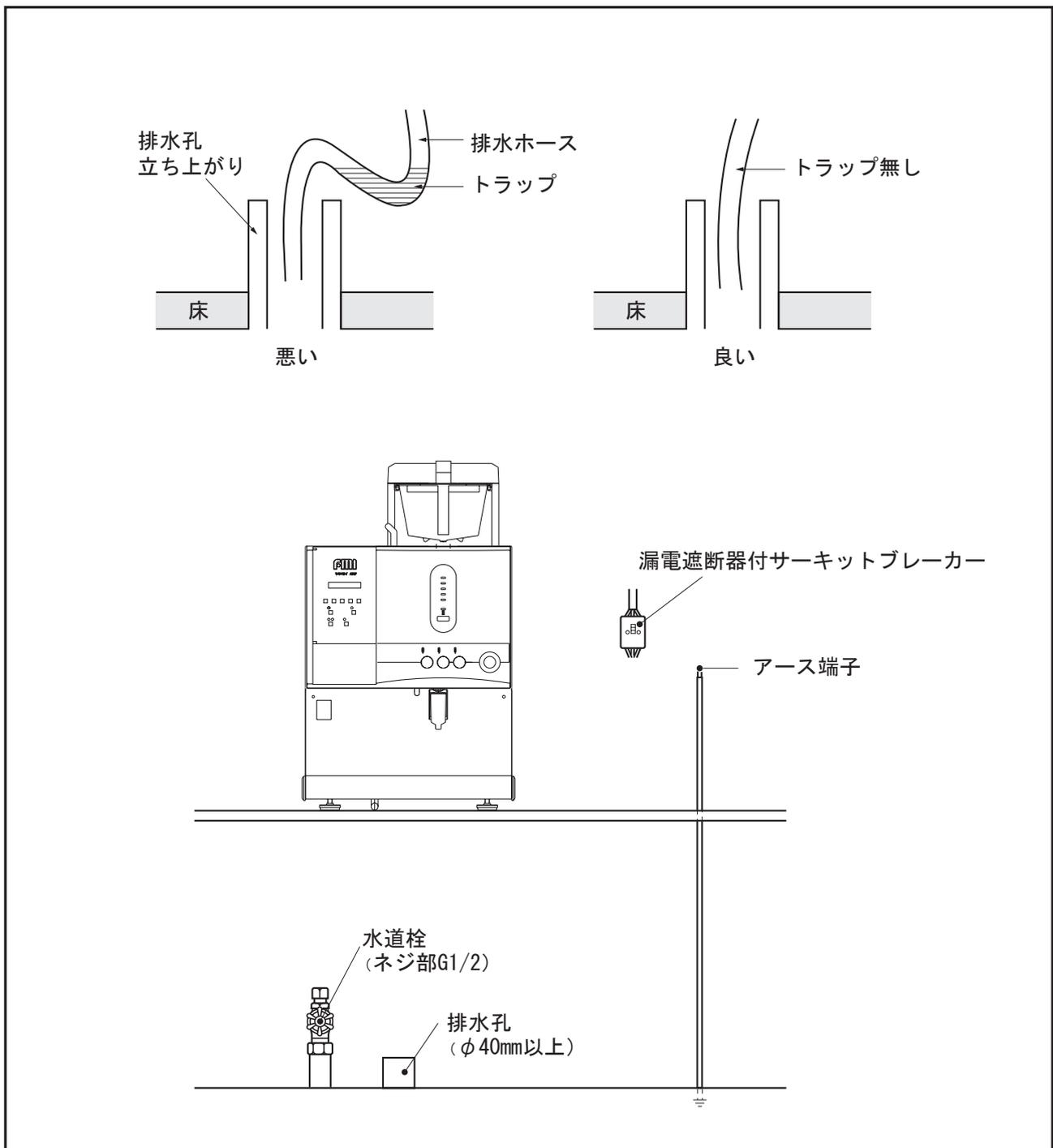
電気

- ① 機械本体設備容量
単相200V 50/60Hz 2.6KVA 13A（ブレーカー容量20A）
- ② 本機の電源は、必ず専用の漏電遮断器付サーキットブレーカーもしくは、それと同等の設備に直接接続してください。
- ③ アース端子は、必ず設けてください。
アースは、法令によりD種接地工事が必要です。電気工事店に工事を依頼してください。
- ④ 電源に近いところ（できれば1m以内）へ据付けてください。
電源コードは約2mです。（3心 外径12mm）
- ⑤ 本機の電源コードを電源設備に接続する際、電源コードが長すぎる場合は、束ねたりせず、少し余裕を持たせて適切な長さにカットして接続してください。



排水孔

- ① 排水孔、または排水溝は、機械近くの低い所に設けてください。
- ② 排水孔の大きさは、直径40mm以上にしてください。
- ③ 立ち上がりは、できるだけ低くしてください。
立ち上がりが高くと、トラップが発生し、排水ができなくなります。
- ④ 熱湯を流すことがありますので、耐熱性のある排水設備を設けてください。



据付け

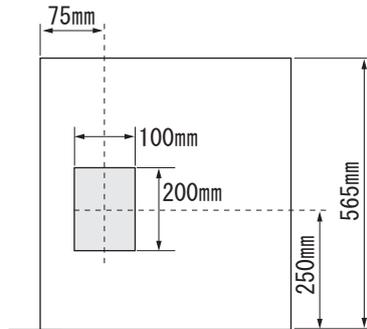
レイアウト

- ① 下図は、据付台に配管穴をあけた理想的な据付け方法です。
据付台には、平面図に記載の寸法で穴をあけ、正面図のように配線および配管をしてください。

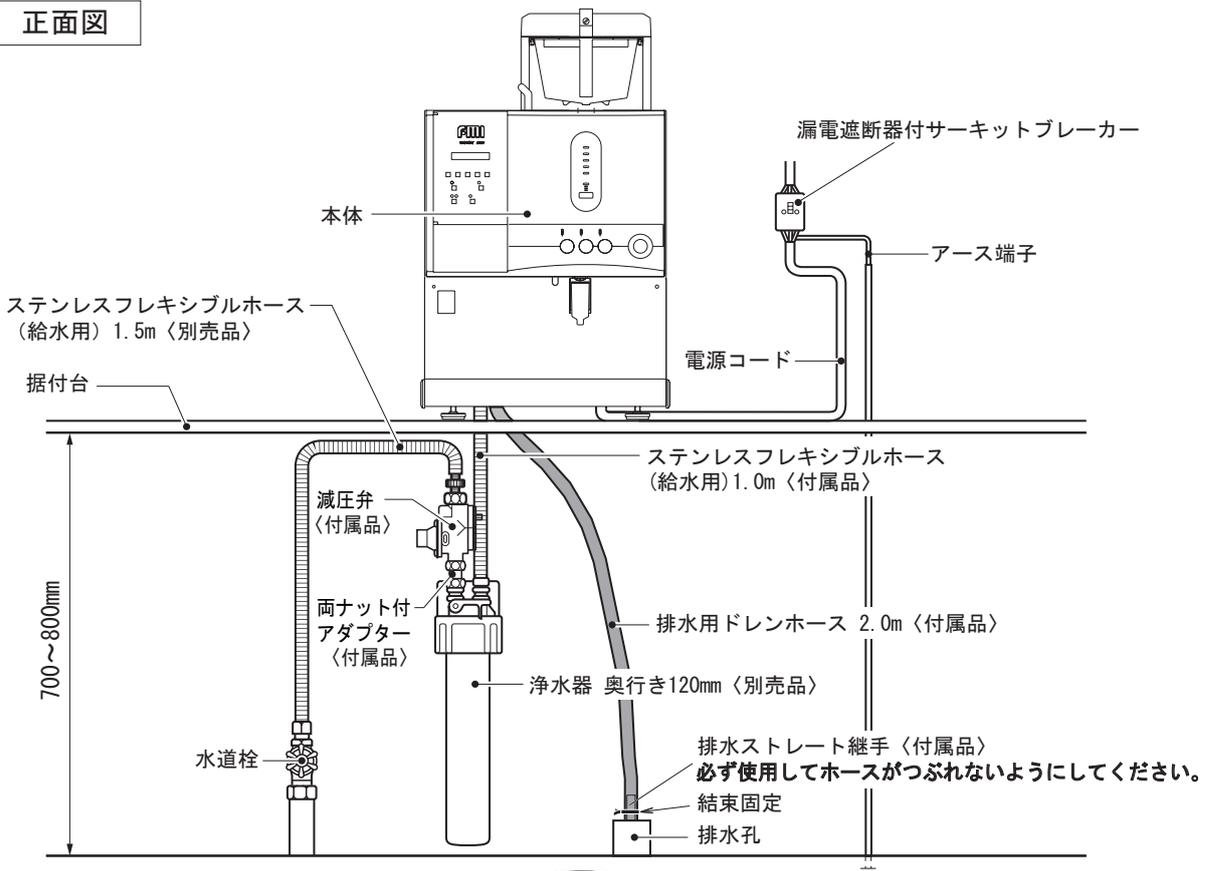
お願い

- ・ドレンパンからの排水用ドレンホースは、絶対にトラップをつくらないようにし、できるだけ傾斜を大きくとってください。
 - ・ドレンホースの接続箇所（最大4箇所）がしっかりと結束できていることを確認してください。
- ホースの接続に抜けや緩みがある場合は、水漏れの原因になります。

平面図

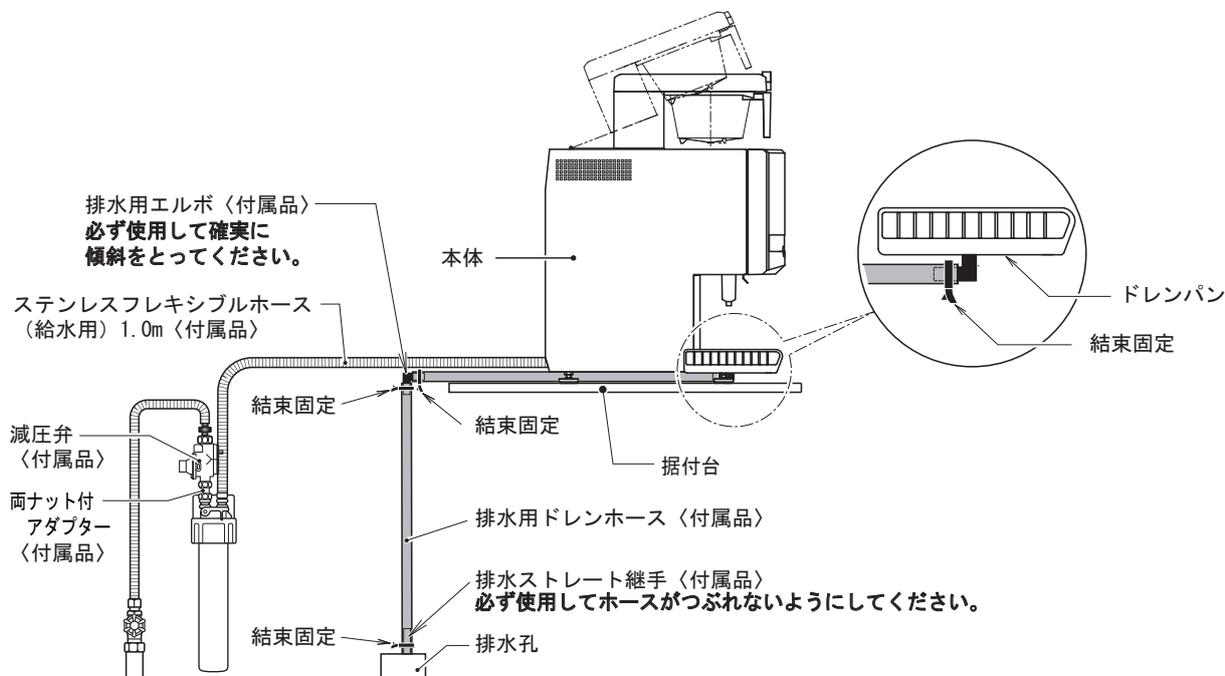


正面図



② 下図は、据付台に穴加工ができない場合の据付け方法です。

【据付台に穴があけられない場合】



据付・接続

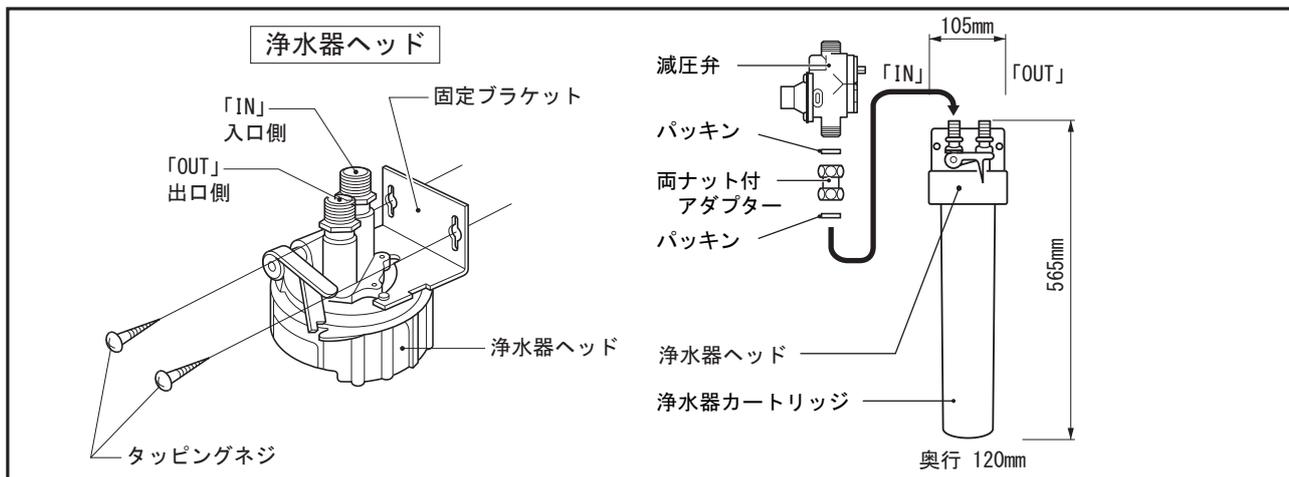
全体レイアウトが決まったら、以下の要領で据付・接続をしてください。

① 浄水器〈別売品〉

●浄水器を取り付けないとコーヒーの味に影響を与えます。また、水道水内のゴミ等により、機械故障の原因となることがありますので、必ず浄水器をつけてください。

1) 浄水器ヘッドの取り付け方

浄水器ヘッドの固定ブラケットを、据付台下の壁面にタッピングネジか釘で取り付けてください。



2) カートリッジを浄水器ヘッドに取り付けてください。

浄水器カートリッジの取り付け方（取り外し方）は、カートリッジに同梱されている取扱説明書をご覧ください。

3) 浄水器内部の洗浄方法

浄水器は、機械に給水ホースを接続する前に約3分間水を流して内部を洗浄してください。

①水道栓と、浄水器「IN」側をステンレスフレキシブルホース（1.5m）で接続してください。

②浄水器「OUT」側にステンレスフレキシブルホース（1.0m）を接続し、ホースのもう一方の端を排水口または、排水溝へ差し込んでください。

③水道栓を開いて、約3分間水を出し、内部のゴミやホコリなどを流してください。

●浄水器は条件により異なりますが、半年または1年毎にカートリッジを交換してください。交換につきましては、お買上げ店にご相談ください。

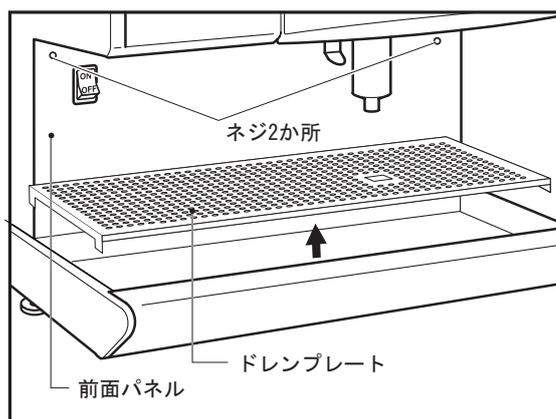
② 給排水の配管

●浄水器内部の洗浄が終わったら、機械に給排水の配管をおこないます。

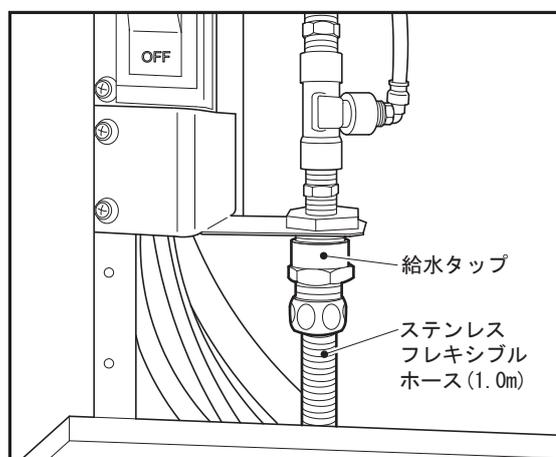
1) ドレンプレート、前面パネルを外します。

①ドレンプレートを取り外します。

②2か所のネジを外して前面パネルを取り外します。

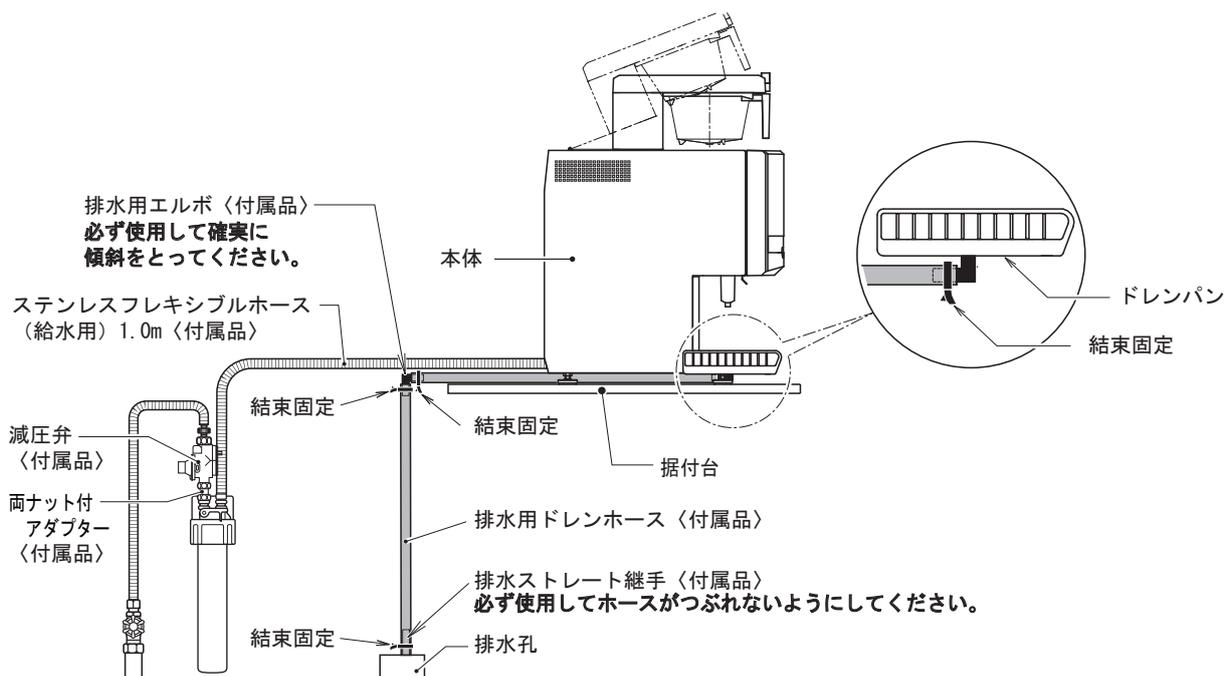
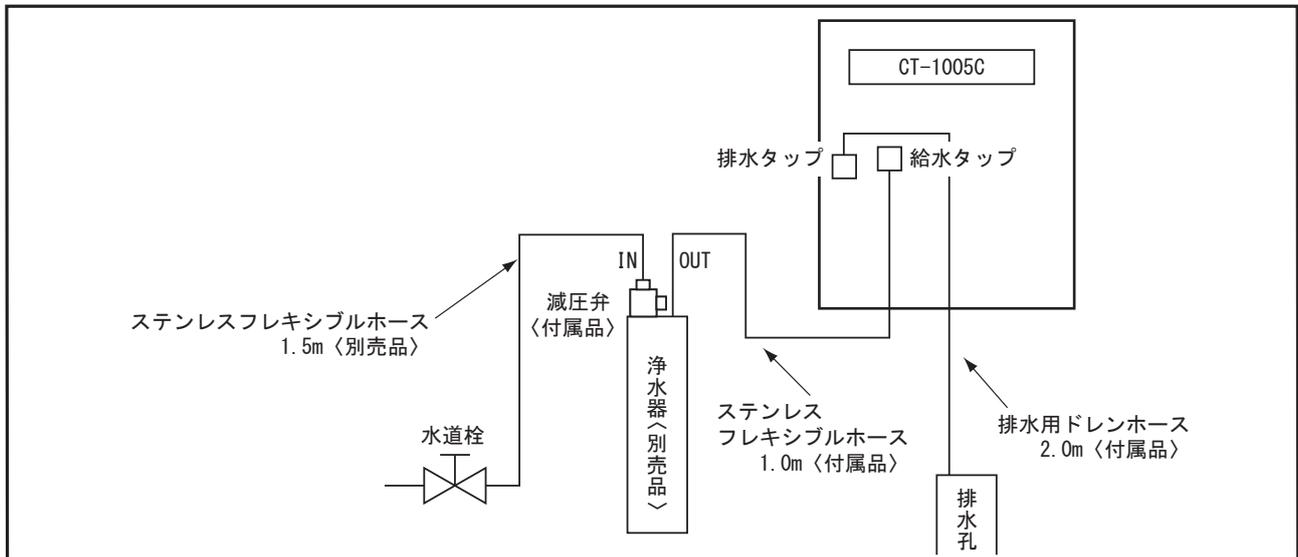


2) 内部の洗浄が終わった浄水器「OUT」側に接続されたステンレスフレキシブルホース（1.0m）を本体底部の穴に通し、右図の給水タップに接続します。



3) 本体下部から出ている排水用ドレンホース（2.0m）を排水孔または排水溝に差しこみます。

据付工事



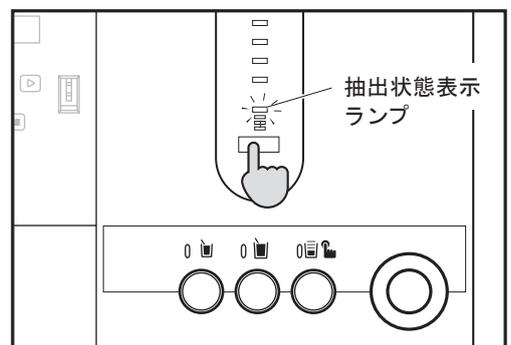
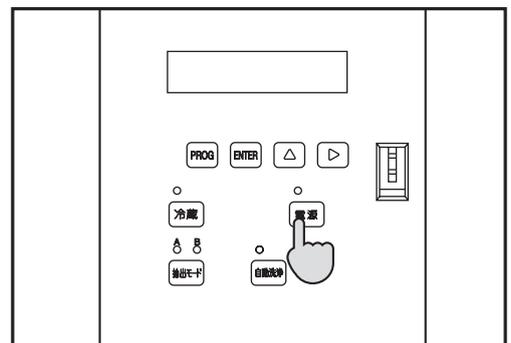
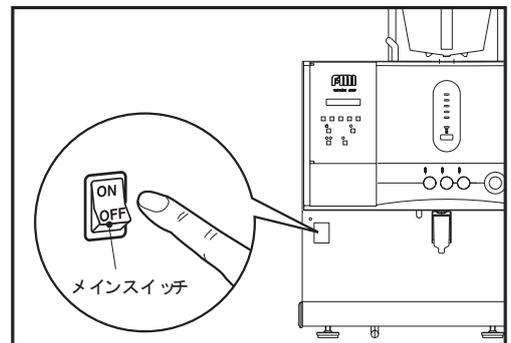
※据付けが完了しましたら、水道の元栓を開け、配管部に水漏れがないか確認してください。

③ 配線

電源コードを、専用の漏電遮断器付サーキットブレーカー等に直接接続してください。
アース線（緑色の線）をアース端子に接続してください。

据付け後の動作確認

- ①機械に「攪拌羽根」「一次冷却容器」「一次冷却管」「ファンネル」をセットしてください。
(セットのしかたは「第3章洗浄・清掃のしかた」をご参照ください。)
「コーヒータンク蓋」は外したままにしてください。また、「ファンネル」にはペーパーフィルターやコーヒー豆を入れる必要はありません。
- ②水道の元栓を開いてください。
- ③本機専用電源（漏電遮断器付サーキットブレーカー）を入れてください。
- ④機械前面左方下部にある「メインスイッチ」を『ON（入）』にしてください。
- ⑤操作パネル部の「電源スイッチ」を押してください。
- ⑥自動的に、温水タンクへの給水が始まります。
温水タンクへの給水時間……約6分
- ⑦温水タンクへの給水が完了すると、自動的に加熱が始まります。
温水タンクへの昇温時間……約10分
- ⑧温水タンクの昇温が完了すると「抽出状態表示ランプ」が緑色に点灯します。
- ⑨「抽出モード選択スイッチ」を「B」にセットし、「ドリップ抽出スイッチ」を押してください。スイッチ上のランプが赤く点灯し、一次冷却容器に熱湯が落ちます。一次冷却容器に溜まった湯は、下のコーヒータンクにゆっくり落ちてゆきます。



メモ

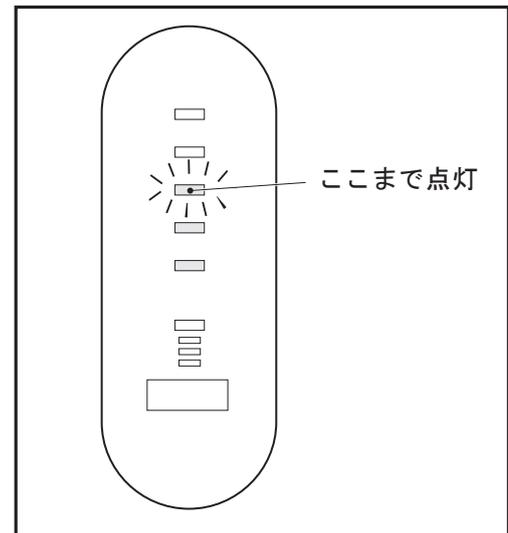
抽出モード選択スイッチごとの抽出量は自由に設定が変更られますが、機械には予め仮設定がされています。
抽出モードA：2L抽出
抽出モードB：3L抽出
(すでに抽出スケジュールの設定を変えてしまっている場合は、抽出量が設定値に応じて変わります。)

据付工事

- ⑩約8分経過すると給湯および後だれが完了し「抽出状態表示灯」が赤く点滅を始めます。このとき、一次冷却容器内の湯が溢れ出していないことを確認してください。

- ⑪約20分経過すると終了し、「抽出状態表示灯」が緑色に点灯します。このときコーヒータンク内に水が約3.4L溜まりディスプレイには、「コーヒーオンド6°C」と表示されます。

- ⑫上記の動作確認後、コーヒータンク内の水を排水してください。「アイスコーヒー取り出しスイッチ (Free)」を押すと、コーヒー取り出しノズルより排水され、ドレンパンから排水ホースに流れます。この際、排水がスムーズに流れるか確認してください。排水配管部に詰まりなどがあると、ドレンパンより水が溢れ出て、周囲を濡らしますのでご注意ください。



- ⑬コーヒータンク上部に、コーヒータンク蓋を取り付けてください。
- ⑭「電源スイッチ」「メインスイッチ」を切ってください。

これで据付け後の動作確認が完了しました。

仕 様

品 名	アイスコーヒーマシン「カフェトロン」
型 式	CT-1005C
外 形 寸 法	幅 460・奥行 565・高さ765 (mm) 〔ファンネル取り付け部を上げた場合の高さ 920mm〕
質 量	65kg
電 源	単相 200V 50/60Hz
電 流	13A
消 費 電 力	2.6kW
ドリップ抽出温度	標準設定 91℃ (85~97℃可変)
コーヒースト温度	6~10℃
コーヒースト量	11L/h、冷却時間も含め3L抽出あたり17分
冷却水消費量	6.5L/15min, 26L/1h
コーヒータンク容量	6.3L
昇 温 時 間	10分 (水温により多少異なります)
水 道 圧 力	0.1~0.5MPa (動作時)
付 属 の 機 能	<ul style="list-style-type: none"> ・自動立ち上げ/停止タイマー (定休日 2曜日設定・日付 3日付設定付) ・ファンネルロック機構 (手動) ・コーヒースト量取り出し機構 ・コーヒースト温度表示 ・コーヒータンク自動洗浄機能 ・コーヒータンク洗浄警告表示 ・浄水器交換時期警告表示
電 源 コ ー ド	長さ 2m (底面取出口からの寸法)

※上記の仕様は、品質向上のため予告なしに変更されることがありますのでご了承ください。

付属品

【はじめに、下記の付属品がそろっているかチェックしてください。】

No.	品 名	No.	品 名
1	粉計量ツブ (洗浄用)	1個	8 ステンレスフレキシブルホース (1.0m)
2	ファンネル (アイスコーヒースト用)	1個	9 排水用ドレンホース (2.0m)
3	ペーパーフィルターガイド	1個	10 排水用エルボ
4	ペーパーフィルター (φ340mm)	100枚	11 排水用ストレート継手
5	酸素系漂白剤「バブルクリーン」 (240g)	1本	12 減圧弁
6	自動洗浄中 告知札	1本	13 両ナット付アダプター
7	取扱説明書	1冊	

〈別売品〉

1. 浄水器ヘッド (エバピュアQC7型 異径ニップル3/8×1/2付)
2. 浄水器カートリッジ (7CB5-S)
3. ステンレスフレキシブルホース (1.5m)

保証書（別添付）について

保証書の内容をよくお読みのうえ、必要事項を必ずご記入ください。
保証書から返信ハガキを切取っていただき、保証書は紛失にご注意され、お客様にて大切に保管してください。
返信ハガキは商品ご購入後、1か月以内にご返信ください。

消耗部品

本商品の消耗部品は以下のものになります。

Oリング	パッキン	チューブ
ペーパーフィルター	計量カップ	付属の洗浄剤

補修用性能部品の保有期間

補修用性能部品とは、本商品の性能を維持するために必要な部品です。

弊社では、本商品の補修用性能部品の保有期間は、販売打ち切り後8年とさせていただきます。

株式会社エフ・エム・アイ

東京：〒106-0041 東京都港区麻布台1丁目11番9号 Tel.03(5561)6521

大阪：〒538-0044 大阪市鶴見区放出東3丁目11番31号 Tel.06(6969)9393

営業所 札幌：〒003-0002 札幌市白石区東札幌二条5丁目4番1号 Tel.011(813)8651

仙台：〒983-0039 仙台市宮城野区新田東1丁目15番6号 Tel.022(238)5711

名古屋：〒454-0822 名古屋市中川区四女子町2丁目46番地 Tel.052(361)7891

広島：〒731-0102 広島市安佐南区川内6丁目43番9号 Tel.082(876)1855

福岡：〒812-0839 福岡市博多区那珂1丁目30番21号 Tel.092(481)2931

出張所 北陸：〒921-8027 金沢市神田1丁目23番11号 Tel.076(243)7810

沖縄：〒901-2214 宜野湾市我如古1丁目54番21号 Tel.098(870)2766

サービス 盛岡：〒020-0124 盛岡市厨川4丁目14番5号 Tel.019(648)5390

ステーション 四国：〒768-0012 香川県観音寺市植田町155番地1 Tel.0875(57)5161

鹿児島：〒890-0073 鹿児島市宇宿1丁目15番8号 Tel.099(263)8281

東京修理工場：〒130-0011 東京都墨田区石原4丁目35番7号 Tel.03(5819)1280

ホームページ <http://www.fmi.co.jp/>